

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難		
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計				
家政学部	児童学科	夜・通信	39	0	0	39	13			
	食物学科	夜・通信			0	39	13			
	住居学科	夜・通信			0	39	13			
	被服学科	夜・通信			0	39	13			
	家政経済学科	夜・通信			0	39	13			
文学部	日本文学科	夜・通信					0	39	13	
	英文学科	夜・通信					0	39	13	
	史学科	夜・通信					0	39	13	
人間社会学部	現代社会学科	夜・通信					0	39	13	
	社会福祉学科	夜・通信					0	39	13	
	教育学科	夜・通信					0	39	13	
	心理学科	夜・通信					0	39	13	
	文化学科	夜・通信					0	39	13	
理学部	数物情報科学科	夜・通信					0	39	13	
	化学生命科学科	夜・通信					0	39	13	

国際文化学部	国際文化学科	夜・通信			0	39	13	
建築デザイン学部	建築デザイン学科	夜・通信			0	39	13	
家政学部 通信教育課程	児童学科	夜・通信	2	2	18	24	13	
	食物学科	夜・通信			10	16	13	
	生活芸術学科	夜・通信			12	18	13	
(備考) 2024 年度より建築デザイン学部建築デザイン学科を新設し、家政学部住居学科を募集停止とした。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>実務経験のある教員等による授業科目を一覧にして、本学公式 HP 上で公表する。 また、全授業科目の各シラバス画面に上記一覧表の公表ホームページアドレスを記載する。 一覧表の公表ホームページアドレスは以下のとおり。 家政学部・文学部・理学部・人間社会学部・国際文化学部・建築デザイン学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/</p> <p>(通信教育課程) 2020 年度から授業概要の項目「概要」部分に実務経験のある教員等による授業であることを明示している。また、一覧表も掲載している。 https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	該当なし
(困難である理由)	

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人日本女子大学公式ホームページに公開 https://www.jwu.ac.jp/grp/about/board.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	愛知淑徳大学名誉教授	2023. 1. 21 ～2027. 1. 20	学校法人に対する客観的な意見をいただく
非常勤	弁護士	2023. 1. 21 ～2027. 1. 20	学校法人に対する客観的な意見をいただく
非常勤	日本総合住生活(株) 特別顧問	2024. 4. 1 ～2028. 3. 31	学校法人に対する客観的な意見をいただく
非常勤	関西大学東京センター長	2023. 1. 21 ～2027. 1. 20	学校法人に対する客観的な意見をいただく
非常勤	(一社)日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長 日本女子大学名誉教授	2020. 7. 11 ～桜楓会理事長である間	学校法人に対する客観的な意見をいただく
非常勤	日本女子大学名誉教授、 (一社)日本ケアラー連盟代表理事	2024. 4. 1 ～2028. 3. 31	学校法人に対する客観的な意見をいただく
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> 例年前年度6月に、「カリキュラム編成等の基本方針に関する申し合わせの会」において、次年度のカリキュラム編成が検討される。この基本方針においてシラバス作成指針も示され、各担当者により、授業の方法、内容、計画がなされ、シラバスが作成される。シラバスの記載内容がカリキュラムの方針(学位授与方針・教育課程編成方針)と整合して適正であるかといった観点から、担当教員以外の第三者によるチェックを行った上で、本学情報システム「JASMINE-Navi」及び本学公式HP上において公表する。 授業計画(シラバス)は、例年前年度12月初旬～2月中旬に各教員により本学情報システム「JASMINE-Navi」を通じて作成され、例年3月下旬に公表される。 各教員は授業計画(シラバス)として以下の項目を記載している。 <ul style="list-style-type: none"> 「授業科目名」「担当者名」「単位数」「ナンバリング」「授業の概要」「授業の方法」「学生に対する教員からのフィードバックの方法」「学位授与方針との関係」「授業の到達目標」「授業計画」「授業形態の種類」「成績評価の方法」「授業外で行うべき学修」「使用テキスト」 <p>(通信教育課程) 次年度の授業科目表のカリキュラム編成に関する基本方針が学務委員会・教授会にて決定された後、各授業科目担当者により、授業の方法、内容、計画がなされ、シラバスが作成される。提出された原稿の記載内容について、通信事務室によりシラバスの記載内容がカリキュラムの方針(学位授与方針・教育課程編成方針)と整合して適正であるかといった観点から、確認した後、第三者チェックを経て確定としている(遅くとも2月中旬)。</p> <p>記載項目については、「概要」「学位授与方針」「到達目標」は全科目に記載、テキスト科目では「学習の進め方」「テキスト・参考書」「成績評価(レポート、科目修了試験)」、スクーリング科目では「授業計画」「受講にあたって①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間、事前課題、②使用教科書、③参考書、④持参するもの、⑤成績評価(方法及び基準)、⑥学生へのメッセージ」を掲載している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>学生に対しては、例年3月下旬に本学情報システム「JASMINE-Navi」にて公表している。また、学外者も本学公式ホームページからシラバスを検索することが可能である。</p> <p>https://www6.jwu.ac.jp/up/faces/login/Com00501B.jsp</p> <p>(通信教育課程) 例年、開講年度の前年度の3月半ばまでに通信教育課程のホームページにおいて公表している。</p> <p>https://www.jwu.ac.jp/ccde/course/curriculum.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- すべての授業科目は、その履修終了時において、試験その他の方法によって成績の評価を行っている。前期科目・後期科目の評価は各期の終了時に行われ、通年科目の評価は1年を通じた履修の終了時に行われる。
- 成績評価が与えられる条件は、①当該科目が履修登録された科目であること、②授業時間数の2/3以上出席していること、となっている。
- 成績評価は次の通り

合否	合格					不合格	
評価	A+	A	B	C	P	F	X
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	合格	59点以下	評価なし
評価の基準	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	到達目標を十分に達成できている優れた成績	到達目標を達成できている成績	到達目標を最低限達成できている成績	段階なし	到達目標を達成できていない成績	評価なし

(通信教育課程) 授業担当者には授業概要作成、レポート課題・科目修了試験出題に当たり、成績評価の基準及び予め示した方法・基準により学修成果の評価を行うことを通知し、さらに、実際の成績評価(レポート添削、科目修了試験採点、スクーリング成績評価)にあたってその基準を再確認した上で、学生の学修評価を公正かつ厳格に行うことを徹底している。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学においては、「GPA制度の取扱いに関する規程」にGPA制度の取扱いに必要な事項を定め、これに基づき実施、運営を行っている。GPAの算出方法としては、学期ごとに履修した対象科目を基にした「学期GPA」及び入学後から現在までに履修した全ての対象科目(累積成績)を基にした「通算GPA」ともに、算出方法は次のとおりとし、小数点第3位(第4位で四捨五入)まで表示している。

●GPA = (A+の単位数×4.0 + Aの単位数×3.0 + Bの単位数×2.0 + Cの単位数×1.0) ÷ 履修登録単位数 (F及びXを含む) ※評価「P」はGPA算出に含めない。

上記の算出方法に基づいた「学期GPA」及び「通算GPA」を学生の学習意欲を高めるとともに適切な修学指導に資するため、所定の期日に各学科へ所定の様式で通知し、各学科は、成績不振の認定基準に該当する学生には個別指導等を行っている。

また、学生等が成績の相対的な位置を把握できるようにするため、別紙資料の形式で、前年度の各学科における成績(当年度GPA)分布状況を本学情報システム「JASMINE-Nav」及び本学教職員向けwebサイトを通じて学生・専任教職員に向けて公表している。

(通信教育課程) 学生が自分の学修の履歴や到達度を把握できることより学習意欲の向上と自主的な履修計画の支援を目的としてGPAを活用している。

客観的な指標の算出方法の公表方法

本学HPにて算出方法を公表している
<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>
 (通信教育課程)『履修の手引』に制度の説明及び算出方法等を掲載している。

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。</p> <p>学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文（学科によっては卒業研究・卒業制作）を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p> <p>(通信教育課程) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。</p> <p>卒業の認定に関する方針にある能力を学生が満たしているかは卒業間近の学生が参加する卒業セミナーにおいて複数の教員により確認されている。通信教育課程のため、自動的な卒業制度はとらず、学生の自主性に基づく卒業申告に基づき、卒業認定を行っており、ここでは卒業に必要な要件を満たしているか事務が確認した後、各学科教員により卒業認定の審査をし、学務委員会・教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>【3つのポリシーについて（本学 HP）】 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html</p> <p>(通信教育課程) 本学 HP で公表するほか、入学案内にも掲載し、広く配布している。</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	日本女子大学
設置者名	学校法人日本女子大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
財産目録	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
事業報告書	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
監事による監査報告(書)	https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画 対象年度:平成30・2019・2020・2021・2022・2023・2024年度)
公表方法: https://www.jwu.ac.jp/grp/about/plan.html
中長期計画(名称:学校法人日本女子大学中期計画 対象年度:2024~2030年度)
公表方法: https://corp.jwu.ac.jp/about/assets/pdf/midrangeplan.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.jwu.ac.jp/unv/about/sr/check.html
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.juaa.or.jp/updata/evaluation_results/291/20200326_691450.pdf
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 家政学部
教育研究上の目的（公表方法： https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/1/mokuteki_unv.pdf?_gl=1*t4di71*_ga*NzY2MzUxODM0LjE2MzU5ODU1ODAx*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNTMxOTM3Mi4zMTkuMS4xNzE1MzE5NDU2LjAuMC4w)
(概要) 家政学は人間の生活を科学する実践的総合科学である。家政学部では生活の科学を学び、生きる力を養うとともに、生活の質を向上させ社会をより豊かにする力を持ち、人類の健康、安全、福祉に貢献したいという意欲あふれる女性を育成することを目的とする。 (通信教育課程) 通信教育課程では、家政学部の教育上の目的に則り、人間が生きるために欠かせない衣・食・住のあり方について、また子どもの環境について総合的に科学し、専門的に学修した知識を実生活や職場で役立てることのできる人材を育成することを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024diploma_policy_unv.pdf)
(概要) 本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。 学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文（学科によっては卒業研究・卒業制作）を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。 (通信教育課程) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている。卒業の認定に関する方針にある能力を学生が満たしているかは卒業間近の学生が参加する卒業セミナーにおいて複数の教員により確認されている。通信教育課程のため、自動的な卒業制度はとらず、学生の自主性に基づく卒業申告に基づき、卒業認定を行っており、ここでは卒業に必要な要件を満たしているか事務が確認した後、各学科教員により卒業認定の審査をし、学務委員会・教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024curriculum_policy_unv.pdf)
(概要) (大学全体) 日本女子大学のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の 2 つから構成される。その科目は 1 年次から 4 年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。 本学の学生は、1 年次を中心に全学共通の基盤的科目群を履修して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに 1 年次から 4 年次にかけての学科の専門科目の履修を通して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、さらにその達成度

レベルを上げていく。全学共通の基盤的科目群の中には、4年間を通じて履修するものもある。

本学で提供する全学共通基盤的科目は以下のとおり。

教養特別講義

本学の建学の精神と教育理念（三綱領）を学ぶ。自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、三綱領の内容を実践していこうとする態度を身につけて、生涯を通して学ぶ意識を高める。本講義は1年次に少人数クラスを編成して、アクティブ・ラーニング形式で行われる。

JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目

JWU キャリア科目は、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目である。JWU 社会連携科目は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組み、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身につける科目である。講義科目だけでなく、職業人との対話や自治体や企業と協働して進める実践的な取り組みを含む演習科目もある。

基礎科目

心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語、情報処理、身体運動から構成されている。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につける。

・外国語（必修英語）

英語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を習得するため、1年次に1年間履修する。

・外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

ドイツ語、フランス語、中国語、または韓国語を学ぶための科目。1年次に1年間を通して、少人数クラスで行われる。学生は、原則、学生の履修希望にそってクラス配属される。

・情報処理

現代社会に必須な情報科学・情報処理の基礎、および情報倫理を実践的に学ぶための科目。1年次に半年間履修する。

・身体運動

生涯の健康維持・増進のためには適切な運動が必要である。その理解を深め、スポーツ・身体運動を実践する能力を育成するため、1年次に1年間通して履修する。

教養科目

様々な学問分野の科目から構成される。専門分野以外の幅広い知識を身につけるために講義形式で行われる授業である。中には、少人数クラスでアクティブ・ラーニングを中心とした授業もある。科目は、「多様な社会と人間の尊厳」「自然の摂理の探求」「知性と文化の系譜」の3つのテーマの科目群に分かれ、いずれのテーマの科目も必ず履修する。

上記の基盤的科目群のうち、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）および情報処理に関しては、上級レベルの力や高度な知識・技能を身につけるための関連科目も全学科の希望学生に提供する。この履修によって、ディプロマ・ポリシーで示す学修成果のレベルを超えたより高度な知識・技能を習得することも可能である。

学科ごとの学位プログラムにおいては、学科の学問分野を踏まえた基礎的な科目および専門科目・プログラムが提供される。これらの科目、いわゆる**学科科目**は、4年間かけて学年ごとに体系的に履修を進めていく。講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングを主体とする演習形式や実験科目も数多く提供される。また、体験的なプログラムを提供する学科もある。

本学では全ての学生に対し、**卒業論文・卒業研究・卒業制作**（学科によっていずれかを指定あるいは選択）を必修としている。卒業論文・卒業研究・卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に、大学ディプロマ・ポリシーで定める様々な力を有機的に身につけ

る機会である。

また、入学後すぐに、大学での学びに関する理解と生涯にわたる学びの導入を目的とした全学的な**初年次教育**を行う。そこでは、入学までに培った知識・技能・態度などを振り返りつつ将来の目標を設定し、自己を成長させる意識を持たせる取り組みを、学修ポートフォリオ（マイステップ@JWU）を使って実践する。このポートフォリオを使った目標の設定・振り返りを4年間継続して行い、「生涯を通じて学ぶ態度」につなげていく。

（児童学科）

児童学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を系統的に習得させるために、以下のカリキュラム・ポリシーに則り、「先端児童学研究法」「児童学専門科目」「演習・特別演習」からカリキュラムを編成する。また、資格取得に必要な専門科目を置く。学科ディプロマ・ポリシーと授業科目の関係は、カリキュラム・マップとして提示する。

以下の「先端児童学研究法」と「児童学専門科目」をもって「児童学科コア科目群」とする。

先端児童学研究法

児童学の全体像と子どもを多角的にとらえる視点を理解するための科目として、1年次に「先端児童学序説」、4年次に「児童学総論」を置く。また、児童学の研究法を体験的に学修するための授業群を置き、児童学の研究領域に関するフィールドの課題の発見とその解決を図る姿勢を養う。

児童学専門科目

児童学の専門必修科目として、「発達に関わる専門科目」、「創造・文化に関わる専門科目」「社会・臨床に関わる専門科目」の3領域に関する専門科目群を置く。「発達に関わる専門科目」では、人間のライフサイクル全般を視野に入れた発達を学ぶ。「創造・文化に関わる科目」では、子どものもつ潜在可能性と独自の世界の理解を基盤として創造・文化について総合的に学ぶ。「社会・臨床」領域では、家族や地域等との連携を視野に入れ課題を考察する。

演習・特別演習

児童学に関するテーマについて実践と理論を往還させ、多角的で論理的に分析することができる能力やコミュニケーション能力を育成するための演習・特別科目を置く。

卒業論文

児童学に関するテーマについて論理的に学術論文としてまとめ、「卒業論文発表会」において的確に伝達する力を育成するために「卒業論文」を置く。

資格科目

幼稚園教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状（家庭）・高等学校教諭一種免許状（家庭）の資格取得のための科目群を置く。保育者養成コースに、幼稚園教諭一種免許状・保育士の資格取得に必要な科目を置く。

（食物学科食物学専攻）

食科学専攻では「生活者」の視点から食を科学するのに必要な内容として、主に1年次に自然科学系基礎科目群（「基礎科学系」）および導入的内容の専門科目群（基礎・導入科目）、2年～3年次に発展的内容の専門科目、4年次は卒論研究を通してさらに専門科目の応用、を学ぶという系統的なカリキュラム構成となっている。基幹となる専門科目群は「食品科学系」「調理加工系」「栄養機能系」に大別される。「食品科学系」「調理加工系」「栄養機能系」の3つの系の科目はそれぞれ、講義（座学による説明・理解）→実験、実習（実践）の順で開講されるようになっており、理論の理解を実際の作業で確認できるように工夫している。さらに上記基幹専門科目に加え、食品の開発、流通、マネジメントについて学ぶ専門科目として「食品開発系」の専門科目を配置している。

Learning Management System: manaba や Teams を積極的に活用し、講義科目、演習科目、実験・実習科目の全ての科目において、積極的にアクティブ・ラーニングが用いられ、いずれの科目においても論理的思考力、コミュニケーションスキルやプレゼンテーション力

が身につく。

基礎科学系および導入的内容の専門科目群

専門科目の理解に必要な「化学」、「生物」に関する発展的な内容を学ぶ講義を置く。

食品科学系

基幹となる専門科目群の一つ。様々な食品の成分とそれらの機能性・食品の発酵・食品衛生を学ぶ講義と実習科目を置く。

調理加工系

基幹となる専門科目群の一つ。高度な調理技術・調理加工品の「物性」や「おいしさ」に対する専門的な解析能力・評価方法を学ぶ講義と実習科目を置く。

栄養機能系

基幹となる専門科目群の一つ。健康な食生活を通じた生涯の健康の保持・促進、を学ぶ講義と実習科目を置く。

食品開発系

食品の開発、流通、マネジメントに関する一般的な知識について学ぶ講義。食品会社で実際に商品開発・基礎研究に携わる講師を招いて、実践的な学びを深める科目も展開している。

卒業論文

4年間の学修の集大成として、未解決の「食」に関する問に対してどのように向き合うかを学ぶ卒業研究を必修としている。卒業研究は3年後期に各研究室に配属され、全員が卒業論文として提出し、発表会で成果を発表する。

専門科目に加え、教職課程の履修により、家庭科の中学校・高等学校教諭1種免許が取得できる。また、フードスペシャリスト関連科目の履修により、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリストの資格を取得することができる。食物学専攻の必修科目を履修することにより、食品衛生管理者、食品衛生監視員の資格を取得することもできる。

(食物学科管理栄養士専攻)

管理栄養士専攻では、栄養士資格を取得し、管理栄養士国家試験受験資格が得られるように栄養士法に基づく所定の科目を配置する。それぞれの科目は「食品衛生・フードサービスマネジメント系」「臨床・福祉栄養系」「公衆栄養・行政・教育系」に大別され、1年次を導入、2年次を基礎、3年次を発展、4年次を応用として位置づけて、講義・演習・実験・実習・校外実習（臨地実習）で学びを深める。

いずれの科目においても Learning Management System: manaba や Teams を授業に積極的に活用しつつ積極的にアクティブ・ラーニングを行うことにより、論理的思考力、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を身につける。

食品衛生・フードサービスマネジメント系

食品学・調理学・食品衛生学および給食経営管理論を中心とした栄養管理に関わる「食品・給食」に関する講義・実習科目を置く。

臨床・福祉栄養系

栄養管理の基礎として人体の構造と機能・疾病の成り立ちを学び、その応用としての臨床栄養学と、行動変容に繋げる栄養教育論に関する講義・実習科目を置く。

公衆栄養・行政・教育系

社会・環境と健康において健康に関する制度や課題を学び、さらに公衆栄養学に発展・応用する講義・実習科目を置く。また、選択科目の履修により栄養教諭一種免許状を取得できる。

臨地実習

「食品衛生・フードマネジメント系」の単位を取得した後、社員食堂や学校等の実践現場での学外実習である臨地実習Ⅰを通じて学内での学びを発展させて理解を深める。同様に臨地実習Ⅱ・Ⅲでは病院で、臨地実習Ⅳでは保健所・保健センター等で実習し、学内での

学びの応用により理解を深める。これらの実習の前後には総合演習として事前・事後学習を行い、根拠に基づいた実践力を身につける。

卒業研究

4年間の学修の集大成として卒業研究を必修としている。卒業研究は3年後期に各研究室に配属され、全員が卒論発表会で発表し論文を提出する。

(住居学科)

住居学科の学生が履修する学科科目群は学科のディプロマ・ポリシーを卒業時に達成できるように、以下の教育課程編成方針に基づき編成されている。

- 住居・建築デザインに関する専門的な知識・技能を習得するため、建築デザイン、生活、計画、歴史、構造・構法、環境・設備に関する講義、演習、実習科目を開講する。
- 建築海外研修や海外の大学等とのワークショップなど、国際性を養う授業科目を開講する。
- 習得した知識を総合し、住居・建築、地域、都市に関わる具体的な課題に対する分析力、課題に対して創造的かつ効果的な解決策を提案（デザイン）し、表現する能力、および論理的に説明・発表し、討論する能力を養成する実践的な演習科目を開講する。
- 情報処理技術等を活用した設計手法、分析・解析手法の習得を目的とした講義、演習科目を開講する。
- 自立的、継続的、計画的に、かつ協調性を持って作業を遂行する能力を養うため実験、演習、設計実習科目を開講する。

なお、学科科目は居住環境デザイン専攻と建築デザイン専攻の共通科目（必修）と専攻別に設定された専門科目（専攻別必修／選択必修／選択）、関連科目（選択）で構成する。共通科目は住居学科の中核をなす6分野の基礎的知識を初年次から網羅的に学び、住居学・建築デザイン学の全体像を把握するとともに、共通言語を身につける。専門科目、関連科目は学生の適正に応じて段階的に専門性を確立できるカリキュラム設計とする。また、その他科目として卒業論文・卒業制作関連科目を開講する。

(被服学科)

被服学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を段階的に習得させるために、以下のカリキュラム・ポリシーに則り、講義科目、実験・実習科目、演習・総合演習科目および卒業論文を置き、基礎科目から専門科目へと段階的に学べるカリキュラム構成とする。また、科目履修方法の指針となるコース制（ファッションサイエンスコース、ファッションアートコース、ファッションデザインコース）を設ける。さらに、資格の取得に必要な専門科目を置く。なお、学科科目と学科ディプロマ・ポリシーとの対応は、カリキュラム・ツリーとして提示する。

講義科目

被服学の幅広い専門領域を総合的に理解するために、自然科学・人文科学・社会科学の領域から構成される講義科目を置く。産業界の知識も学修できるように企業人を講師とした科目も含める。

実験・実習科目

講義科目の理解をより深め、被服に関する専門知識を実践的に学び応用できるように、実験、実習科目を置く。

演習・総合演習科目

より専門的な分野の手法や知見を学び、他者ともコミュニケーションを取りながら課題を明確化する能力を養成するため、3～4年次に演習科目を置く。

卒業論文

大学での学修の集大成として4年次に卒業論文を置く。自ら課題を見つけ、探究し、学術論文としてまとめあげるとともに、その成果を第三者に発表する。

資格科目

衣料管理士（一級）資格取得のための専門科目を置く。繊維・ファッション業界必携の繊維製品品質管理士（TES）資格取得を支援する課外講座を置く。また、中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭）、司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の資格取得に必要な科目を置く。

（家政経済学科）

1年次は、経済学、家政学、経営学、政治学など幅広い社会科学の領域の入門科目群を学びながら、全体を俯瞰しアカデミックな学びの基礎スキルを学修する。

2年次に、より深く経済学・経営学を学ぶ「経済・経営コース」と公共的な視点から生活問題を学ぶ「公共・生活コース」のどちらかを選択し、選択したコースの専門知識を学ぶ科目群が設置されている。経済・経営領域には「経済理論系」「応用・実証系」「経営・地域系」の科目群が設置され、また公共・生活領域には「生活経済系」「生活経営系」「公共系」の科目群が設置されている。特徴的なのは、ゆるやかなコース制となっていることで、どちらのコースを取っても自分のコースの選択必修の科目とともに、自らの関心に応じて他のコースの科目も含めて科目を取れる自由度が高いことである。また、両コースとも外国語で経済・生活を学ぶ科目も用意されている。

3年次には、各領域の発展的な科目をさらに取って学びを深めるとともに、少人数制の演習科目（ゼミ）を全員が取り、調査の実践および仲間との議論で学びを深める。

4年次には、演習科目（ゼミ）で卒業研究に取り組み、学修を総合する。

主な取得可能な科目：中学・高校家庭科、中学社会・高校公民の教員免許

入門科目

1年次に社会科学領域の基礎的な科目を幅広く学び、学科の学びの基礎を築く。一部の科目ではアカデミック・ライティングの基礎を身につけることができる。

経済理論系

経済をミクロとマクロの視点から学び、複雑な経済現象を理解する力を養う。

応用・実証系

入門科目や経済理論系で学んだ知識をもとに現実に生じている様々な問題を分析する力を養う。一部の科目では経済実験を含めたアクティブ・ラーニングを行っている。

経営・地域系

経営戦略論、マーケティング論、経営組織論、会計学、および地域経済論の知識と分析手法を身につける。社会的課題や経済的課題に対して、農村地域での体験学習を通じて考察したり、他の系の知識も取り入れながら複眼的に分析しグループ研究を行ったりするアクティブ・ラーニングの科目も含まれる。

生活経済系

生活と経済が関わる領域や社会保障、消費者政策等の領域を学修する。一部の応用的な科目ではグループワークやプレゼンテーションを行っている。

生活経営系

生活の諸問題を、生活の内部条件と外部条件の双方向からとらえ分析する力を養う。一部の応用的な科目ではグループワークなどを行っている。

公共系

政治・行政に関する仕組みやあり方を学び、民主主義の視点を身につける。一部の応用的な科目ではグループディスカッションやインタビュー調査を行っている。

外国語

両コースごとに英語で専門的な学術文献を講読し、思考力や知識を身につける。

演習

1、2年次で学んだことを土台として、少人数制のゼミで学びを深め、卒業論文につなげる。

（通信教育課程）

児童学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を系統的に習得させるために、以下のカリキュラム・ポリシーに則り、「児童学専門科目」「共通科目」「関連科目」からカリキュラムを編成する。また、資格取得に必要な専門科目を置く。

児童学専門科目

児童学の専門必修科目として、「発達に関わる専門科目」「教育に関わる専門科目」「健康に関わる専門科目」「文化に関わる専門科目」「社会に関わる専門科目」の5分野に関する専門科目群を置く。

共通科目

児童学に共通科目として、「児童学研究法」「児童学特講」「児童学演習」などを置く。

関連科目

児童学に関連する科目群を置く。

資格科目

幼稚園教諭一種免許状資格取得、学校図書館司書教諭のための科目群を置く。また、「芸術・子ども支援プログラム」「認定絵本土」に関する授業科目群を置く。

(通信教育課程食物学科)

食物学科では、「生活者」の視点から食を科学するのに必要な内容として、主に1年次に自然科学系基礎科目群および導入的内容の専門科目群(基礎・導入科目)、2年~3年次に発展的内容の専門科目というカリキュラム構成になっている。基幹となる専門科目群は「食品学系」「調理学系」「栄養学系」に大別され、それぞれテキスト科目、実験実習の順に開講されており、理論を実際の作業で確認できるように配置されている。

Learning Management System: manaba や Teams を積極的に活用し、テキスト科目、演習科目、実験・実習科目において、積極的にアクティブ・ラーニングが用いられ、いずれの科目においても論理的思考力、コミュニケーションスキルやプレゼンテーション力が身につく。

「基礎科学系」および導入的内容の専門科目

専門科目の理解に必要な「化学」、「生物学」に関する発展的な内容を学ぶテキスト科目、スクーリングでの講義科目、実験科目を置く。

「食品学系」

基幹となる専門科目群の一つ。様々な食品の成分とそれらの機能性・食品の加工貯蔵・食品衛生を学ぶテキスト科目、スクーリングでの講義科目、スクーリングでの実験科目を置く。

「調理学系」

基幹となる専門科目群の一つ。高度な調理技術、調理加工食品の「物性」や「おいしさ」に対する解析能力・評価方法を学ぶテキスト科目とスクーリングでの実験・実習科目を置く。

「栄養学系」

基幹となる専門科目群の一つ。健康な食生活を通じた生涯の健康の保持・増進を学ぶテキスト科目とスクーリングでの実験・実習科目を置く。

「卒業論文」

4年間の学修の集大成として、卒業研究を希望する学生のために、選択科目として卒業論文を配置する。

専門科目に加え、教職課程の履修により、家庭科の中学校・高等学校教諭一種免許が取得可能である。また、フードスペシャリスト関連科目の履修により、フードスペシャリスト、専門フードスペシャリスト資格を取得することができる。

(通信教育課程生活芸術学科)

生活芸術学科では、幅広い、衣生活学、住生活学の専門領域を総合的に理解するために、衣生活分野には衣素材系、衣造形系、被服・文化系、流通・消費系を、住生活分野には、住生活系、計画系、設計・デザイン系、構造・生産系を置く。

衣生活、住生活に関する専門知識を実践的に学び応用できるように、演習授業、実習授業

を配置する。

方法科目

テキスト科目、エニタイムスクーリングでは、レポート課題を課し、知識をもとに自己の表現で論理的に記述し、図表や画像、絵なども用いて的確に表現できるように促す。

対面授業では、実践的な技能が習得できるよう、制作、実験・実習科目を置き、また意見交換やグループワークなどの協働の場を設け、他者の視点に関心を持ち、主体性をもって解決する機会とする。

関連科目

幅広い衣生活、住生活の専門領域を総合的に理解するために、1年次に「衣生活学概論」、「住居学概論」などを置く。

主題科目

2～4年次に段階的に専門知識を習得するために、衣生活、住生活に関する講義科目を置く。衣生活分野には衣素材系、衣造形系、被服・文化系、流通・消費系を、住生活分野には、住生活系、計画系、設計・デザイン系、構造・生産系を置く。

資格科目

中学校教諭一種免許状（家庭科）、高等学校教諭一種免許状（家庭科）、学校図書館司書教諭の資格に必要な専門科目を置く。

繊維製品品質管理士の受験対策科目を配置する。

二級建築士、木造建築士試験指定科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf)

（概要）

（大学全体）

日本女子大学は、多様で大きく変化し続ける社会の中で、様々な立場の人の幸福と平和を実現する明日を共創するために、一人ひとりが自らの役割を見出し、探究心と信念を持って生涯にわたって学び実践し続けることが大切であると考えている。本学は、そのような人間の成長を本学の教育の理念（三綱領）に基づき支援する教育・研究活動を行う。この教育方針のもと、基礎的な力および幅広い教養を身につける全学共通の基盤的な教育プログラムと各専門分野における学位プログラムを通して、教育目標の達成を目指す。

日本女子大学は、各学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎的な知識・表現力・思考力を身につけており、他者を尊重し、互いにコミュニケーションを取りながら主体的なものごとに取り組む意欲のある学生を求める。

（児童学科）

- ・児童学を学びたいという意欲のある人
- ・「発達」「社会・臨床」「創造・文化」の3領域に幅広い興味を持つ人
- ・子どもや子どもを取り巻く課題を多角的に理解し、解決しようとする人
- ・子どもと共に文化を継承し、創造しようとする人

（食物学科食物学専攻）

- ・生活や社会における様々な「食」に関する問題に関心を持ち、「食」を科学的に深く学びたいという意欲のある人
- ・「食」に対して知的好奇心と探究心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲のある人
- ・身に付けた「食」に関する知識・技術を基に、食品の開発や研究、起業、教育（家庭科教諭）を通じて、地域社会・国際社会に貢献したいと考えている人
- ・科学的な知識・技術や考察力を身につけ、社会で活躍したいと考えている人

（食物学科管理栄養士専攻）

- ・管理栄養士資格を取得するのに必要な知識と応用力を身につけたい人
- ・人の身体と栄養に関して深く学びたいという意欲のある人
- ・主体的に栄養に関する課題を発見し、正しい知識を用いて解決したい人
- ・管理栄養士として様々な領域で社会貢献したい人
- ・管理栄養士として国際的視野を持ち、異分野と連携して、社会を良くしたい人

(被服学科)

- ・被服に関連する事象を総合的に理解しようとする人。
- ・被服を多角的視点から深く学び、人間生活に役に立つ知識を獲得し、自ら考え、社会へ提案する意欲のある人。
- ・何事にも一生懸命に取り組む姿勢があり、向上心を持つ人。
- ・幅広い知識を身につけ、衣生活をより快適に豊かにしたいという意欲のある人。
- ・自分の考えを文章や言葉で表現でき、コミュニケーションを図ることのできる人。
- ・被服分野の専門家として社会貢献したい人。

(家政経済学科)

- ・生活をめぐる様々な社会的課題や経済的課題に興味・関心を持つ人
- ・経済学、家政学、経営学、政治学などの社会科学の領域に関心を持ち、幅広く学びながら自分の学びの中心となる学問領域を見つけていこうとする探求心のある人
- ・幅広い視野を持ち、主体的に学ぶ姿勢を持つ人
- ・社会科学の知識や考え方を身につけ、多様な立場の人々の幸せや持続可能な社会の構築に貢献したいと望む人

(通信教育課程児童学科)

- ・児童学を学びたいという意欲のある人
- ・「発達」「社会・臨床」「創造・文化」の3領域に幅広い興味を持つ人
- ・子どもや子どもを取り巻く課題を多角的に理解し、解決しようとする人
- ・子どもと共に文化を継承し、創造しようとする人

(通信教育課程食物学科)

- ・生活や社会における様々な「食」に関する問題に関心を持ち、「食」を科学的に深く学びたいという意欲のある人
- ・「食」に対して知的好奇心と探求心を持ち、主体的に学修に取り組む意欲のある人
- ・身につけた「食」に関する知識・技術を基に、食品企業や行政、教育現場（家庭科教諭）などで社会に貢献したいと考えている人
- ・科学的な知識・技術や考察力を身につけ、社会で活躍したいと考えている人

学部等名 文学部

教育研究上の目的（公表方法：

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/1/mokuteki_unv.pdf?_gl=1*t4di71*_ga*NzY2MzUxODM0LjE2MzU5ODU1ODAx*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNTMxOTM3Mi4zMTkuMS4xNzE1MzE5NDU2LjAuMC4w)

(概要)

文学部は、日本ならびに諸外国の文学・言語・歴史の探究をとおして自己と世界についての認識を深め、単なる実用性ととどまらず、より高度な学問的追究と批評精神をもって新しい文化の創造に貢献する自立した女性を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024diploma_policy_unv.pdf)

(概要)

本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。

学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024curriculum_policy_unv.pdf)

(概要)

(大学全体)

日本女子大学のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の 2 つから構成される。その科目は 1 年次から 4 年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。

本学の学生は、1 年次を中心に全学共通の基盤的科目群を履修して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに 1 年次から 4 年次にかけての学科の専門科目の履修を通して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、さらにその達成度レベルを上げていく。全学共通の基盤的科目群の中には、4 年間を通じて履修するものもある。

本学で提供する全学共通基盤的科目は以下のとおり。

教養特別講義

本学の建学の精神と教育理念（三綱領）を学ぶ。自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、三綱領の内容を実践していこうとする態度を身につけて、生涯を通して学ぶ意識を高める。本講義は 1 年次に少人数クラスを編成して、アクティブ・ラーニング形式で行われる。

JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目

JWU キャリア科目は、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目である。JWU 社会連携科目は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組み、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身につける科目である。講義科目だけでなく、職業人との対話や自治体や企業と協働して進める実践的な取り組みを含む演習科目もある。

基礎科目

心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語、情報処理、身体運動から構成されている。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につける。

・外国語（必修英語）

英語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を習得するため、1 年次に 1 年間履修する。

・外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

ドイツ語、フランス語、中国語、または韓国語を学ぶための科目。1 年次に 1 年間を通して、少人数クラスで行われる。学生は、原則、学生の履修希望にそってクラス配属される。

・情報処理

現代社会に必須な情報科学・情報処理の基礎、および情報倫理を実践的に学ぶための科目。1 年次に半年間履修する。

・身体運動

生涯の健康維持・増進のためには適切な運動が必要である。その理解を深め、スポー

ツ・身体運動を実践する能力を育成するため、1年次に1年間通して履修する。

教養科目

様々な学問分野の科目から構成される。専門分野以外の幅広い知識を身につけるために講義形式で行われる授業である。中には、少人数クラスでアクティブ・ラーニングを中心とした授業もある。科目は、「多様な社会と人間の尊厳」「自然の摂理の探求」「知性と文化の系譜」の3つのテーマの科目群に分かれ、いずれのテーマの科目も必ず履修する。

上記の基盤的科目群のうち、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）および情報処理に関しては、上級レベルの力や高度な知識・技能を身につけるための関連科目も全学科の希望学生に提供する。この履修によって、ディプロマ・ポリシーで示す学修成果のレベルを超えたより高度な知識・技能を習得することも可能である。

学科ごとの学位プログラムにおいては、学科の学問分野を踏まえた基礎的な科目および専門科目・プログラムが提供される。これらの科目、いわゆる**学科科目**は、4年間かけて学年ごとに体系的に履修を進めていく。講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングを主体とする演習形式や実験科目も数多く提供される。また、体験的なプログラムを提供する学科もある。

本学では全ての学生に対し、**卒業論文・卒業研究・卒業制作**（学科によっていずれかを指定あるいは選択）を必修としている。卒業論文・卒業研究・卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に、大学ディプロマ・ポリシーで定める様々な力を有機的に身につける機会である。

また、入学後すぐに、大学での学びに関する理解と生涯にわたる学びの導入を目的とした全学的な**初年次教育**を行う。そこでは、入学までに培った知識・技能・態度などを振り返りつつ将来の目標を設定し、自己を成長させる意識を持たせる取り組みを、学修ポートフォリオ（マイステップ@JWU）を使って実践する。このポートフォリオを使った目標の設定・振り返りを4年間継続して行い、「生涯を通じて学ぶ態度」につなげていく。

（日本文学科）

日本文学科では、日本語・日本文学および中国文学・思想（漢文学）、図書館情報学、日本語教育学等の各学問領域に関する専門知識および学科ディプロマ・ポリシーで示した能力の修得を保証するため、以下の基礎科目、通史、専門科目（講義）、専門科目（演習）、卒業論文関連科目、その他の関連科目を段階的・体系的に編成している。

本学科の学生は全員、1年次に基礎科目を履修して、学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに1年次から4年次にかけて通史、専門科目（講義）を履修しつつ、2年次からの専門科目（演習）の履修を通して学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、その達成度レベルを上げていく。3年次から卒業研究予備演習が履修でき、4年次には全員が卒業研究演習を履修して、学科での4年間の学修の集大成として卒業論文をまとめる。各自の関心に応じてその他の関連科目も履修することができる。

本学科で提供する科目は以下のとおり。

基礎科目

日本文学・日本語学研究の基礎を身につけるための科目群。「変体仮名演習」と「基礎演習」では、一次資料を用いて古典文学作品を読解する力を少人数のアクティブ・ラーニング形式で修得する。「文章表現法」では、レポート・論文や実用文を書くための基本的なリテラシーを身につける。

通史

上代から近現代までの日本文学と、日本語の歴史的な変遷を体系的に修得する。日本語・日本文学と関連の深い中国文学、中国思想の歴史についても学ぶことができる。

専門科目（講義）

上代から近現代までの日本文学と、音韻、文法、方言等をはじめとする日本語学の諸領域について関心に応じて学び、自らの専門性を深める。

日本語・日本文学と関連の深い中国の代表的な文学作品についても学ぶことができる。

専門科目（演習）

上代から近現代までの日本文学と、音韻、文法、方言等をはじめとする日本語学の諸領域、中国文学・思想、漢文学について少人数のアクティブ・ラーニング形式で実践的に学び、自らが発見した問題と解決までのプロセスを、プレゼンテーション等を通じて他者に明確に伝えることのできる技術を修得する。

例えば、「古典文学演習」では、1年次に身につけた変体仮名を読む力を活用して一次資料を分析する能力を修得する。「日本語学演習」では、コーパス等の活用を通してデータサイエンスの基礎を学び、伝統的な研究方法に応用することもできる。「日本文学科情報検索演習」では、ICTを活用した高度な情報検索技術を修得することができる。

卒業論文関連科目

卒業論文の執筆に向けて3年次から各自の関心に応じてゼミナールである「卒業研究予備演習」を選択することができる。選択可能なゼミナールの分野には、上代文学、中古文学、中世文学、近世文学、近代文学、日本語学、中国文学・思想（漢文学）、日本語教育学、図書館情報学がある。4年次には全員がゼミナール「卒業研究演習」に所属し、発表やゼミ生との議論、指導教員による個別指導を通じて研究を深め、その成果を卒業論文にまとめる。

その他の関連科目

このほか、「創作技法論」や「マスメディア論」では現役で活躍している作家やジャーナリストによる実践的な授業を通して表現力や情報リテラシーを磨く。日本語教員養成講座の必修科目である「日本語教育方法論」では、日本語教育法の理論的背景の変遷と教材の利用方法をアクティブ・ラーニング形式で学ぶ。「書誌学」では、江戸時代以前に書写された古典籍の知識と取り扱い方法について本学科所蔵の古典籍を用いながら実践的に学ぶ。

なお、希望者は中学・高等学校教諭（国語）、司書、日本語教員、博物館学芸員の資格を取得することができる。

（英文学科）

英文学科では、国際社会で通用する実践的な英語コミュニケーション能力の修得を目標に、1年次に英語関連の基礎科目、2年次には発展科目を必修として設置する。4技能を基礎から発展まで段階的に学習できる教育体系を通して、総合的、実践的な英語運用能力の養成を目指す。さらに、6分野（イギリス文学、イギリス文化、アメリカ文学、アメリカ文化、言語・英語研究、英語教育）に関する専門科目群を設置し、国際社会を生きる市民として求められる幅広い教養を身につける。

本学科で提供する科目は以下のとおり。

英語文献読解科目群

1～2年次には、評論、小説、詩など、様々なタイプの英語文献を迅速かつ精緻に読み解くために必要な技術を修得する科目を必修として設置している。

英語表現科目群

卒業論文執筆に向けて、アクティブ・ラーニングを中心とする実践的な英語表現科目を設置している。1年次に基礎レベルの英作文科目、2年次に発展レベルのアカデミック・ライティング科目を必修とし、全ての学生が無理なく英語による論文執筆ができる教育体制を構築する。なお、2年次に英語ネイティブ教員によるアカデミック・プレゼンテーションの技術を養成する科目を設けている。

専門科目群

6分野についての基礎知識を習得するために、1・2年次に各分野の入門、概論に位置づけられる科目を設置する。3・4年次には、より専門性が高い講義科目、演習科目を設置し、英語圏の文化と言語に関する幅広い知識と高度な教養を涵養する。

卒業研究科目群

3・4年次に開講する「卒業論文セミナー」においては、1・2年次に身につけた基礎力を発展させ、英語による情報検索、資料読解、研究成果の口頭発表、ディスカッション等を経て、最終的に各自が設定した研究テーマで、5,000語以上の英語論文を執筆する。

教職課程

教職課程において所定の単位を修得することにより、中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）、および小学校教諭二種免許状を取得することができる。

（史学科）

史学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を段階的に習得させるために、以下のカリキュラム・ポリシーに則り、「方法科目」、「基礎演習」、「主題科目」、「演習」、「特別演習」および「卒業論文」を体系的に編成する。また、資格の取得に必要な専門科目を置く。なお、学科科目と学科ディプロマ・ポリシーとの対応は、カリキュラム・マップとして提示する。

方法科目

歴史学と関連諸科学に関する基本的な知識と視点、および論理的な思考方法を身につけるための導入科目として、1～2年次に方法科目を置く。

基礎演習

方法科目で習得した知識・技能を実践する場として、1年次に「基礎演習 I」を置く。2年次には、史資料・文献の読解力を養うため、「基礎演習 II」「古文書基礎演習」を置く。

主題科目

2～4年次に段階的に専門知識を修得するため日本史・西洋史・東洋史に関する講義科目を置く。また、日本と世界の文化・歴史に対する幅広い知識を持ち、理解を深めるため、歴史と関係の深い地理学・宗教学・博物館学等の人文社会系科目を置く。

演習・特別演習

3～4年次に、史資料の読解や調査を主体的に行い、調べたことを的確に表現し、他者と意見を共有・議論するコミュニケーション力の養成のため、演習科目を置く。

卒業論文

4年次に大学での学修の集大成として、卒業論文を置く。一つのテーマについて自らの視点から論を展開し、学術論文としてまとめ上げる。

資格科目

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、博物館学芸員の資格に必要な専門科目を置く。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf)

（概要）

（大学全体）

日本女子大学は、多様で大きく変化し続ける社会の中で、様々な立場の人の幸福と平和を実現する明日を共創するために、一人ひとりが自らの役割を見出し、探究心と信念を持って生涯にわたって学び実践し続けることが大切であると考えている。本学は、そのような人間の成長を本学の教育の理念（三綱領）に基づき支援する教育・研究活動を行う。この教育方針のもと、基礎的な力および幅広い教養を身につける全学共通の基盤的な教育プログラムと各専門分野における学位プログラムを通して、教育目標の達成を目指す。

日本女子大学は、各学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎的な知識・表現力・思考力を身につけており、他者を尊重し、互いにコミュニケーションを取りながら主体的なものごとに取り組む意欲のある学生を求める。

（日本文学科）

・日本文学や日本語学に強い関心を持ち、深く学びたいという意欲のある人

- ・日本文学や日本語学を軸としつつ、上記の関連分野である中国文学・思想、日本語教育学、図書館情報学にも関心を持ち、学ぶ意欲のある人
- ・知的好奇心と探究心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲のある人
- ・人間とは何であるかを言語・文学・文化・歴史を通して学ぶ意欲のある人
- ・文学や文化的・歴史的遺産を通して自分の生き方を考え、自己実現を達成する意欲のある人

(英文学科)

- ・英語や英米圏の文化に強い関心を持ち、深く学びたいという意欲のある人
- ・異文化への関心を持ち、国際的視野に立って社会に貢献したいと考える人
- ・知的好奇心と探究心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲のある人
- ・人間とは何であるかを言語・文学・文化・歴史を通して学ぶ意欲のある人
- ・文学や文化的・歴史的遺産を通して自分の生き方を考え、自己実現を達成する意欲のある人

(史学科)

- ・歴史や歴史的資料（史料）へ強い関心を持ち、深く学びたいという意欲のある人
- ・歴史的背景を踏まえて異文化や国際問題を理解する意欲のある人
- ・知的好奇心と探究心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲のある人
- ・人間とは何であるかを言語・文学・文化・歴史を通して学ぶ意欲のある人
- ・文学や文化的・歴史的遺産を通して自分の生き方を考え、自己実現を達成する意欲のある人

学部等名 人間社会学部

教育研究上の目的（公表方法：

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/1/mokuteki_unv.pdf?_gl=1*t4di71*_ga*NzY2MzUxODMOLjE2MzU5ODU1ODA.*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNTMxOTM3Mi4zMTkuMS4xNzE1MzE5NDU2LjAuMC4w)

(概要)

人間社会学部は、人間の視点から社会を、社会の視点から人間を、多様なアプローチのもとで専門的・実践的かつ総合的に学び、人間と社会についての幅広い教養と深い学識を身につけた意欲ある女性を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024diploma_policy_unv.pdf)

(概要)

本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。

学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文（学科によっては卒業研究）を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024curriculum_policy_unv.pdf)

(概要)

(大学全体)

日本女子大学のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の2つから構成される。その科目は1年次から4年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。

本学の学生は、1年次を中心に全学共通の基盤的科目群を履修して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに1年次から4年次にかけての学科の専門科目の履修を通して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、さらにその達成度レベルを上げていく。全学共通の基盤的科目群の中には、4年間を通じて履修するものもある。

本学で提供する全学共通基盤的科目は以下のとおり。

教養特別講義

本学の建学の精神と教育理念（三綱領）を学ぶ。自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、三綱領の内容を実践していこうとする態度を身につけて、生涯を通して学ぶ意識を高める。本講義は1年次に少人数クラスを編成して、アクティブ・ラーニング形式で行われる。

JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目

JWU キャリア科目は、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目である。JWU 社会連携科目は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組み、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身につける科目である。講義科目だけでなく、職業人との対話や自治体や企業と協働して進める実践的な取り組みを含む演習科目もある。

基礎科目

心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語、情報処理、身体運動から構成されている。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につける。

・外国語（必修英語）

英語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を習得するため、1年次に1年間履修する。

・外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

ドイツ語、フランス語、中国語、または韓国語を学ぶための科目。1年次に1年間を通して、少人数クラスで行われる。学生は、原則、学生の履修希望にそってクラス配属される。

・情報処理

現代社会に必須な情報科学・情報処理の基礎、および情報倫理を実践的に学ぶための科目。1年次に半年間履修する。

・身体運動

生涯の健康維持・増進のためには適切な運動が必要である。その理解を深め、スポーツ・身体運動を実践する能力を育成するため、1年次に1年間通して履修する。

教養科目

様々な学問分野の科目から構成される。専門分野以外の幅広い知識を身につけるために講義形式で行われる授業である。中には、少人数クラスでアクティブ・ラーニングを中心とした授業もある。科目は、「多様な社会と人間の尊厳」「自然の摂理の探求」「知性と文化の系譜」の3つのテーマの科目群に分かれ、いずれのテーマの科目も必ず履修する。

上記の基盤的科目群のうち、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）および情報処理に関しては、上級レベルの力や高度な知識・技能を身につけるための関連科目も全学科の希望学生に提供する。この履修によって、ディプロマ・ポリシーで示す学修成果のレベルを超えたより高度な知識・技能を習得することも可能である。

学科ごとの学位プログラムにおいては、学科の学問分野を踏まえた基礎的な科目および専門科目・プログラムが提供される。これらの科目、いわゆる**学科科目**は、4年間かけて学年ごとに体系的に履修を進めていく。講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングを主体とする演習形式や実験科目も数多く提供される。また、体験的なプログラムを提供する学科もある。

本学では全ての学生に対し、**卒業論文・卒業研究・卒業制作**（学科によっていずれかを指定あるいは選択）を必修としている。卒業論文・卒業研究・卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に、大学ディプロマ・ポリシーで定める様々な力を有機的に身につける機会である。

また、入学後すぐに、大学での学びに関する理解と生涯にわたる学びの導入を目的とした全学的な**初年次教育**を行う。そこでは、入学までに培った知識・技能・態度などを振り返りつつ将来の目標を設定し、自己を成長させる意識を持たせる取り組みを、学修ポートフォリオ（マイステップ@JWU）を使って実践する。このポートフォリオを使った目標の設定・振り返りを4年間継続して行い、「生涯を通じて学ぶ態度」につなげていく。

（現代社会学科）

導入段階科目

基礎科目を通して専門科目の学習の土台となる基本的能力や幅広い教養を身につける。また、基礎演習Ⅰ・Ⅱ（1・2年次必修）を通じてアカデミック・スキルを学ぶことで、大学生活や専門的学習に必要な感覚・認識や作法・技法を身につける。

基礎・発展段階科目

「コミュニケーションの社会学／メディアの社会学」、「身体の社会学／スポーツの社会学」、「ワークの社会学／キャリアの社会学」、「ジェンダーの社会学／家族の社会学」、「都市社会学／環境社会学」、「歴史社会学／比較社会学」といったカテゴリーで分けられた専門科目群を中心に選択履修し、現代社会に関する幅広い知見・視点を身につけつつ、自らの研究分野や専門領域を見定める。また、上記の専門領域を結びつける方法系科目・調査系科目といった科目群を選択履修することによって、社会科学的なリテラシーやスキルを習得する。

応用段階科目

それまで培ってきた社会科学的な関心・視点、知識・方法を踏まえ、演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年次必修ゼミ）に所属し、各人が設定した研究テーマを深め、それを卒業論文として完成させる。この演習Ⅰ・Ⅱでは、学生同士が討議・交流するなかで専門的な研究テーマを掘り下げ、互いに研鑽しあい、担当教員による個別指導によって卒業論文の完成度を高める。

外国語科目

導入段階として、必修英語（1年次必修）に加えてドイツ語・フランス語・中国語・韓国語からひとつ選択（1年次必修）し、履修することでグローバルなパースペクティブを身につける。また、基礎・発展段階として、外国語演習Ⅱ（2年次必修）を通じて、外国語で社会科学的な視点・方法を身につけることで、グローバルな水準のアカデミック・リテラシーを身につける。

演習科目

導入・基礎・発展・応用の段階に応じて、基礎演習Ⅰ・Ⅱ（1・2年次必修）、演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年次必修）が4年間を通じて用意されている。こうした少人数のゼミ形式の授業を通じて、学生同士が討議・交流しあい、担当教員と直接対話することで、現代社会を実践的に探求し、高い意欲と倫理的態度を培う。

（社会福祉学科）

社会福祉学科では、社会福祉的な視点から物事を把握する力および学科ディプロマ・ポリシーで示した能力の修得のため、以下の科目群を配置し、社会福祉を段階的・体系的に学べるようにしている。初年次には問題・認識系（基幹科目群）科目、その後に専門的な知識や技術を深めるための制度・政策系（政策科目群）科目、方法系（実技・実践科目群）

科目、個別領域系（福祉分野科目群および福祉マネジメント科目群）科目、3年次・4年次では総合系科目を配置している。また、他学科連携科目群も配置し、自らの専門を活かした学びができるのも特徴である。

本学科で提供する科目する科目は以下のとおり。

基幹科目群（問題・認識系、総合系）

本学科の学生は全員1年次に基幹科目である「基礎演習」、「社会問題」、「社会福祉発達史」を履修する。これらの学びを通して、社会福祉のものの見方に幅広く触れる。また、大学での学びの基礎となる能力の修得も目指す。

また、本学の学生は全員3年次と4年次に10名程度の少人数のゼミナール（「社会福祉演習Ⅰ・Ⅱ」）を履修する。ゼミナールは自身の興味関心に基づいて自由に選択できることが特徴である。学びの集大成として全員が4年次終了時には卒業研究として卒業論文の執筆に取り組み、その成果を発表する。卒業論文のテーマも自由に設定している。

政策科目群（制度・政策系）

1年次後期からは社会福祉の基本的な構造を理解するための科目の履修が始まる。社会福祉行政、社会保障などの専門知識を深めるとともに、2年次には全員が「労働法」を学ぶことで、働く人の福祉、自身のキャリアについても考える。

実技・実践科目群（方法系）

1年次後期にソーシャルワークの基礎を学んだうえで、2年次からはその専門知識をさらに深め、少人数クラスで実施する「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習」を通して、ソーシャルワークの全体像の理解と修得を目指す。また、2年次からはインタビュー、アンケート、フィールドワークといった社会調査の様々な方法を学び実践する科目も配置している。さらに、メンタルヘルスや困窮者支援などの社会福祉の多様な「現場」を実際に訪れ、課題に直面する当事者や支援活動に従事する人などの声に触れるとともに、問題の社会構造的要因分析の視点から学びを深める。

福祉分野科目群（個別領域系）

「児童」「障害」「高齢者」「国際」「女性」「医療」「家族」「貧困」「メンタルヘルス」「労働」など自身の興味関心のある分野を深め、社会福祉の専門性を高める。

福祉マネジメント科目群（個別領域系）

今日の福祉の動向を学ぶことのできる科目群である。たとえば、社会福祉行政における地方自治の現状と課題、市町村のあり方、社会福祉サービスの経営などを学ぶ。

他学科連携科目群

「異分野連携実践演習」を通して、自身の専門を意識し、他者との協働・連携を学ぶ。

（教育学科）

教育学科では、ディプロマ・ポリシーに示した能力を育成するために、教育学の理論、教育学の方法論、教育実践論をバランスよく学びながら、同時に教育フィールドを対象とした演習や実習を行うことで、理論と実践の有機的な往還によって学びを深める教育を行っていく。

教育課程は、「教育学理論科目群」「教育学方法論科目群」「教育実践学科科目群」「教育フィールド実習科目群」をそれぞれ導入・基礎・応用・発展と段階的および体系的に編成して実施する。教育学科における学習の総仕上げとして「卒業論文」を課す。

教育学理論科目群

教育学の基本的知識・理論を学ぶために、教育に関わる哲学、歴史学、社会学、心理学等や、学校教育学、生涯教育、国際教育、ICT教育等に関する科目から構成する。教職の「教育に関する基礎的理解」に関する科目を含む。

教育学方法論科目群

教育学の主要な研究方法である文献調査法、量的調査法、質的調査法等に関する科目（1～2年次）と、教育学の理論と教育的事象・社会の諸問題・教育実践を結びつけて教育のあり方を探究する教育学ゼミナールに関する科目（3～4年次）から構成する。グループ

ワークや討論を通して多様な考え方を知る機会を設定し、自ら設定した問いについて多面的に考察し論理的に説明する力を身につけていく。

教育実践学科目群

教育学の理論や研究知見を踏まえた教育プログラムを設計し実践する力を身につけるための科目により構成する。学校における各教科の授業をはじめ、教科外の教育プログラムや、一般社会かつ幅広い対象への各種の教育プログラム等を、グループワークやフィールドワークを通して自分たちで作成し実施する。実践後の省察を含めたカリキュラム構成とし、よりよい教育実践を追究する力を身につけていく。教職の「教科教育法」に関する科目、社会教育士資格に関する科目を含む。

教育フィールド実習科目群

学校現場や一般社会などのフィールドにおける実習や演習を行う科目により構成する。1、2年次に学校現場を観察したり、指導・支援の補助を体験したりする科目によって、早期に、教職の適性を判断する機会を設定する。また社会教育や国際教育に関するフィールドワーク科目により、多様で異なる文化背景を持つ他者と教育を通じたコミュニケーションを図り視野を拡大する機会も設ける。3、4年次は、教職に関しては「教育実習」、社会教育士資格に関しては「社会教育実習」を行い、免許・資格取得につなげるとともに、将来のキャリアを見据えた学びへと発展させていく。

(心理学科)

1年次

基本科目として演習を必修としている。実験演習では、基礎的な心理実験を少人数グループで実践しながら体験するアクティブ・ラーニングを通じて、データの分析やレポート作成の基本を学ぶ。心理学の研究法や倫理とともに、対人援助において重要な理解・共感のプロセスを学ぶための演習も提供している。また、心理学の初歩的な知識を習得するために、概論を科目群として設定している。

2年次

実験演習では、人間の心を科学的に研究するための方法論を、アクティブ・ラーニングによって更に深く体験する。レポート作成と添削を受けるフィードバック経験を通じ、学術的な報告書作成のための技能修得を目指す。

2年次以降

特定テーマの心理現象の深い理解を促すとともに、コンピュータを用いた統計的解析法やプレゼンテーション技法を学ぶために、概説や特講といった科目群を置いている。

3年次以降

学科専修科目として3年次から少人数クラスでの演習（ゼミ）を設置し、専門性の高い学術資料の講読や研究法の実習を行う。3、4年次の演習（ゼミ）を通じ、科学的知見の正確な理解と批判的な思考を介して新たな研究へと発展させていく態度が養成されるよう配慮している。

4年次

学修を集大成する卒業論文を必修とする。

公認心理師資格の取得を希望する者のための演習や実習を含んだ科目、および卒業後、大学院において臨床心理士資格の取得を希望する者のために役立つ科目を置いている。社会科学的な調査能力とデータ分析能力を扶育し、社会調査士の資格取得に繋がる科目も置いている。

(文化学科)

文化学科のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の二つから構成されている。科目は1年次から4年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。

文化学科の学生は全員、原則として1年次に全学共通の基盤的科目群、ならびに学科専門科目の中でもっとも基礎的な知識および方法論を身につける科目を履修し、学科ディブ

ロマ・ポリシーの学修成果を身につけるための基礎的な学力を身につける。さらに1年次から4年次にかけての専門科目の履修を通して、ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、達成度レベルを上げていくこととなる。4年次には卒業研究が必修であり、この科目で提出する「卒業研究」が4年間の学びの集大成としてディプロマ・ポリシーの学修成果が最も端的に示される。

講義科目

2～4年次に専門知識を習得するため、視覚・比較・地域の分野の理解を深めるための講義科目を置く。

演習科目

講義科目、1年次の「基礎演習」で習得した知識や方法論を実践する場として、2年次に「演習 I」、3、4年次に「演習 II」を置く。自ら問題を設定して資料の読解や調査を主体的に行い、調べたことを論文として表現する力、他者と意見を共有・議論するコミュニケーションの力を養成する。また留学・海外研修を必須の内容とする演習科目を置く。自他の文化の多様性・相互関係の理解を深め、国際的な場で研究し発表する異文化コミュニケーションの力を養成する。

卒業研究

4年次に大学での学修の集大成として卒業論文を置く。一つのテーマについて、自らの視点から論を展開し、学術論文としてまとめ上げる。口頭試問や公開発表会を実施し、成果を確認しあう。

資格科目

博物館学芸員の資格に必要な専門科目を置く。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf）

（概要）

（大学全体）

日本女子大学は、多様で大きく変化し続ける社会の中で、様々な立場の人の幸福と平和を実現する明日を共創するために、一人ひとりが自らの役割を見出し、探究心と信念を持って生涯にわたって学び実践し続けることが大切であると考えている。本学は、そのような人間の成長を本学の教育の理念（三綱領）に基づき支援する教育・研究活動を行う。この教育方針のもと、基礎的な力および幅広い教養を身につける全学共通の基盤的な教育プログラムと各専門分野における学位プログラムを通して、教育目標の達成を目指す。

日本女子大学は、各学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎的な知識・表現力・思考力を身につけており、他者を尊重し、互いにコミュニケーションを取りながら主体的なものごとに取り組む意欲のある学生を求める。

（現代社会学科）

- ・現代社会における諸問題に関心を持ち、その解決に向けて多角的に考えている人
- ・身近な出来事と社会全体の動向との関わりの探究に意欲を持っている人
- ・日本および世界の社会や歴史に関心を持ち、それを多角的、総合的に理解・把握したいと考えている人

（社会福祉学科）

- ・社会問題に関心があり、その解決のための実践的な方法を深く学びたいという意欲がある人
- ・他者と関わりをもつことに興味があり、共感的態度で他者を理解する重要性を認識している人
- ・生活上の諸問題をかかえる人々への社会的支援のあり方に関心がある人
- ・知的好奇心と探求心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲がある人
- ・多様な価値観や自分とは異なる感性を柔軟に受け入れられる人として、社会で活躍した

いと望む人

(教育学科)

- ・教育に関わる幅広い学問領域に興味がある人
- ・学校教育の意義や教師の役割に関心がある人
- ・教育的事象や社会の諸問題に興味がある人
- ・教育の望ましいあり方を探究しようとする人
- ・学びを支援することに関心がある人
- ・他者と協働して社会をよりよく発展させていく意欲がある人
- ・自らの成長のために学び続けたいと望む人

(心理学科)

- ・人間の心の働きの仕組みや成り立ちを、科学的に理解することに興味のある人。
- ・調査や実験などの科学的な研究法を身につけ、心の働きを主体的に探求したい人。
- ・生物学的、社会・文化的な視点から、人間の心の働きを学問融合的に捉えていくことに関心のある人。
- ・自分とは異なる考えも傾聴し、より広く深い人間理解を求め人。
- ・実証的なデータや文献を読み解き、自身の考察を論理的に表現する意欲のある人

学部等名 理学部

教育研究上の目的（公表方法：

https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/1/mokuteki_unv.pdf?_gl=1*t4di71*_ga*NzY2MzUxODM0LjE2MzU5ODU1ODAx*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNTMxOTM3Mi4zMTkuMS4xNzE1MzE5NDU2LjAuMC4w)

(概要)

理学部は、実験的および理論的な訓練を土台とした自然科学教育により、自然の真理を探究する論理的思考能力と創造力、そして複雑な現象に隠されている原理を発見し応用する力を兼ね備えた、自立した女性を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024diploma_policy_unv.pdf)

(概要)

本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。

学位授与を適切に行うための措置として、卒業研究を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024curriculum_policy_unv.pdf)

(概要)

(大学全体)

日本女子大学のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の 2 つから構成される。その科目は 1 年次から 4 年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。

本学の学生は、1 年次を中心に全学共通の基盤的科目群を履修して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに 1 年次から 4 年次にかけての学科の専門科目の履修を通して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、さらにその達成度

レベルを上げていく。全学共通の基盤的科目群の中には、4年間を通じて履修するものもある。

本学で提供する全学共通基盤的科目は以下のとおり。

教養特別講義

本学の建学の精神と教育理念（三綱領）を学ぶ。自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、三綱領の内容を実践していこうとする態度を身につけて、生涯を通して学ぶ意識を高める。本講義は1年次に少人数クラスを編成して、アクティブ・ラーニング形式で行われる。

JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目

JWU キャリア科目は、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目である。JWU 社会連携科目は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組み、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身につける科目である。講義科目だけでなく、職業人との対話や自治体や企業と協働して進める実践的な取り組みを含む演習科目もある。

基礎科目

心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語、情報処理、身体運動から構成されている。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につける。

・外国語（必修英語）

英語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を習得するため、1年次に1年間履修する。

・外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

ドイツ語、フランス語、中国語、または韓国語を学ぶための科目。1年次に1年間を通して、少人数クラスで行われる。学生は、原則、学生の履修希望にそってクラス配属される。

・情報処理

現代社会に必須な情報科学・情報処理の基礎、および情報倫理を実践的に学ぶための科目。1年次に半年間履修する。

・身体運動

生涯の健康維持・増進のためには適切な運動が必要である。その理解を深め、スポーツ・身体運動を実践する能力を育成するため、1年次に1年間通して履修する。

教養科目

様々な学問分野の科目から構成される。専門分野以外の幅広い知識を身につけるために講義形式で行われる授業である。中には、少人数クラスでアクティブ・ラーニングを中心とした授業もある。科目は、「多様な社会と人間の尊厳」「自然の摂理の探求」「知性と文化の系譜」の3つのテーマの科目群に分かれ、いずれのテーマの科目も必ず履修する。

上記の基盤的科目群のうち、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）および情報処理に関しては、上級レベルの力や高度な知識・技能を身につけるための関連科目も全学科の希望学生に提供する。この履修によって、ディプロマ・ポリシーで示す学修成果のレベルを超えたより高度な知識・技能を習得することも可能である。

学科ごとの学位プログラムにおいては、学科の学問分野を踏まえた基礎的な科目および専門科目・プログラムが提供される。これらの科目、いわゆる**学科科目**は、4年間かけて学年ごとに体系的に履修を進めていく。講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングを主体とする演習形式や実験科目も数多く提供される。また、体験的なプログラムを提供する学科もある。

本学では全ての学生に対し、**卒業論文・卒業研究・卒業制作**（学科によっていずれかを指定あるいは選択）を必修としている。卒業論文・卒業研究・卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に、大学ディプロマ・ポリシーで定める様々な力を有機的に身につけ

る機会である。

また、入学後すぐに、大学での学びに関する理解と生涯にわたる学びの導入を目的とした全学的な**初年次教育**を行う。そこでは、入学までに培った知識・技能・態度などを振り返りつつ将来の目標を設定し、自己を成長させる意識を持たせる取り組みを、学修ポートフォリオ（マイステップ@JWU）を使って実践する。このポートフォリオを使った目標の設定・振り返りを4年間継続して行い、「生涯を通じて学ぶ態度」につなげていく。

（数物情報科学科）

数物情報科学科では、主に初年次に数学、物理学および情報科学の基礎を学び、主に2年次以降に数学、物理学、情報科学およびそれらの融合分野から専門を想定し、高度な知識と技術を身につける。ただし、専門外の授業を受講することもできる。

数物情報科学科の授業科目は「学科基礎」「展開」「講究」「特論」「卒業研究」「理学基礎」「教職課程」の科目群に分かれる。学科科目と学科ディプロマ・ポリシーとの対応はカリキュラム・マップ中に提示する。

学科基礎

数学、物理学、および情報科学の基礎を学ぶため、1年次に「学科基礎」科目群を設置する。1年次の全ての学生は、この内容を学修する。

展開

2～4年次に、数学、物理学、情報科学、およびそれらの融合分野に関する専門的な内容を学修するため、「展開」科目群を設置する。各学生はその専門分野と興味に合わせて履修する科目を選択する。

講究

2年次と3年次に数学、物理学、情報科学、およびそれらの融合分野に関する文献の読解や調査を通じて専門分野の知識を深め、さらに質疑応答や議論を通じて自らの考えを論理的に伝える能力を身につける。

特論

4年次に、数学、物理学、情報科学、およびそれらの融合分野に関する高度に専門的な内容を学ぶため、大学院との共通科目である「特論」科目群を設置する。

卒業研究

4年次に卒業論文を書く。そのために、専門やその隣接する分野の専門書や論文を読んで最近の学問の発展を学び、その内容について説明したり、意見交換したりすることによって、自分の研究の方向性を探り、構想を練る。研究テーマについて調べたり、実験したり、考えたことを発表し、それに対する教員や他の学生の意見を参考にしつつ、さらに自分の研究を深め、論文をまとめる。

理学基礎

数学、物理学、情報科学だけでなく、化学や生物学なども含めた、専門分野の周辺をなす理学の基礎を学ぶ。

教職課程

中学校教諭一種免許状（数学、理科）、高等学校教諭一種免許状（数学、理科、情報）の資格取得のために必要な専門科目を設けている。数学と情報、あるいは理科と情報の2教科の免許状を取得することも可能である。

学生が実践的に学ぶための科目として、先述の「講究」と「卒業研究」に加えて、授業形態が演習、実験、実習の科目がある。1年次から4年次まで、どの学年にもそのような科目が設けられている。演習では数学や物理や情報の問題を解き、それを発表したりレポートしたりする。物理に関する実験では、物理現象に関し測定やシミュレーションを行い、考察し、発表する。情報の実習、演習では、アルゴリズムを考え、それを具体化させるためのプログラミングを行う。また、情報の実験では基盤となる機構を動作させて、原理と応用性について理解する。講究や卒業研究では実践的な学びとともに、その成果を論理的な形式にまとめ、発表を行う。これによって、論理的思考力とプレゼンテーションスキル

を身につける。

(化学生命科学科)

1年次

数学・物理・情報・化学・生物学・地学の様々な分野を含む系列「理学基礎」から、科目を選択して履修する。科目名に「概論」が付いているものは、基本的に2年次以降の専門科目への導入として重要なものである。特に、「化学」「生物学」の名称が付されている科目の履修は強く推奨され、2年次以降の化学と生物学の基礎的知識と実験技術を身につけることができる。

2年次および3年次

化学と生物学に関する多くの選択科目(系列「展開」・系列「総合」)の中から、自ら設定した目標や志向に応じて科目を選択し、2年間かけて段階的に科学的な専門知識と論理的な思考力を醸成する。また、系列「実験」においては、定められた単位数の実験を選択履修する必要がある。この実践的な実験科目の履修を通じて、他者と協力して実験し議論する力を養い、分析力や考察力、レポート作成力等を深めていくことができる。さらに、系列「特別研究」に含まれる「化学生命科学英語」は少人数の演習授業であり、英語の基礎的文献を読み発表する力を育む。

4年次

化学か生物学、または複合領域のいずれかを専門とする研究室に所属して、独自の新規テーマの研究に取り組む。「卒業研究演習」では、専門性の高い英語の文献を読む力を養い、専門分野の知識を深め、科学的な議論を行い、プレゼンテーション能力を高める。「卒業研究」では、原理や目的を理解して適切な実験を行う技術と能力を培うとともに、データ分析力、問題解決能力、論理的な考察力などの総合的な応用力を身につける。1年間の集大成として卒業論文を執筆し、口頭で研究発表を行う。

なお、中高(理科)の教諭一種免許状が取得できる教職課程、および博物館学芸員課程のカリキュラムも提供する。

入学者の受入れに関する方針(公表方法:

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf)

(概要)

(大学全体)

日本女子大学は、多様で大きく変化し続ける社会の中で、様々な立場の人の幸福と平和を実現する明日を共創するために、一人ひとりが自らの役割を見出し、探究心と信念を持って生涯にわたって学び実践し続けることが大切であると考えている。本学は、そのような人間の成長を本学の教育の理念(三綱領)に基づき支援する教育・研究活動を行う。この教育方針のもと、基礎的な力および幅広い教養を身につける全学共通の基盤的な教育プログラムと各専門分野における学位プログラムを通して、教育目標の達成を目指す。

日本女子大学は、各学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎的な知識・表現力・思考力を身につけており、他者を尊重し、互いにコミュニケーションを取りながら主体的なものごとに取り組む意欲のある学生を求める。

(数物情報科学科)

- ・数学、物理学、情報科学またはそれらの複合領域を深く学びたいという意欲のある人
- ・数学、物理学、情報科学を軸としつつ、理系の様々な学問領域に幅広い興味を持つ人
- ・数学、物理学、情報科学に関する「実験」、「実習」、「演習」などの実践的な学修と研究を面白いと感じ、その重要性を認識している人
- ・知的好奇心と探究心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲のある人
- ・科学的な知識・技術や考察力を身につけ、社会で活躍したいと望む人

(化学生命科学科)

- ・化学か生物学または両者の複合領域を深く学びたいという意欲のある人
- ・化学や生物学を軸としつつ、理系の様々な学問領域に幅広い興味を持つ人
- ・化学や生物学に関する「実験」を面白いと感じ、その重要性を認識している人
- ・知的な好奇心と探究心を持ち、主体的に学修や研究に取り組む意欲のある人
- ・科学的な知識・技術や考察力を身につけ、社会で活躍したいと望む人

学部等名 国際文化学部

教育研究上の目的（公表方法：
https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/1/mokuteki_unv.pdf?_gl=1*t4di71*_ga*NzY2MzUxODM0LjE2MzU5ODU1ODAx*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNTMxOTM3Mi4zMTkuMS4xNzE1MzE5NDU2LjAuMC4w)

（概要）
 国際文化学部は、様々な地域や研究領域に存在する問題を自らつかみとり、それを国際的視野や学術的知見に基づいて理解・把握し、他者と協力しながら解決を模索することを通して、新たな文化や社会の構築に主体的にかかわることができる人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：
https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024diploma_policy_unv.pdf)

（概要）
 本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。
 学位授与を適切に行うための措置として、卒業研究を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行う。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：
https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024curriculum_policy_unv.pdf)

（概要）
 （大学全体）
 日本女子大学のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の 2 つから構成される。その科目は 1 年次から 4 年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。
 本学の学生は、1 年次を中心に全学共通の基盤的科目群を履修して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに 1 年次から 4 年次にかけての学科の専門科目の履修を通して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、さらにその達成度レベルを上げていく。全学共通の基盤的科目群の中には、4 年間を通じて履修するものもある。

本学で提供する全学共通基盤的科目は以下のとおり。

教養特別講義

本学の建学の精神と教育理念（三綱領）を学ぶ。自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、三綱領の内容を実践していこうとする態度を身につけて、生涯を通して学ぶ意識を高める。本講義は 1 年次に少人数クラスを編成して、アクティブ・ラーニング形式で行われる。

JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目

JWU キャリア科目は、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目である。JWU 社会連携科目は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り

組み、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身につける科目である。講義科目だけでなく、職業人との対話や自治体や企業と協働して進める実践的な取り組みを含む演習科目もある。

基礎科目

心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語、情報処理、身体運動から構成されている。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につける。

- ・外国語（必修英語）

英語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を習得するため、1年次に1年間履修する。

- ・外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

ドイツ語、フランス語、中国語、または韓国語を学ぶための科目。1年次に1年間を通して、少人数クラスで行われる。学生は、原則、学生の履修希望にそってクラス配属される。

- ・情報処理

現代社会に必須な情報科学・情報処理の基礎、および情報倫理を実践的に学ぶための科目。1年次に半年間履修する。

- ・身体運動

生涯の健康維持・増進のためには適切な運動が必要である。その理解を深め、スポーツ・身体運動を実践する能力を育成するため、1年次に1年間通して履修する。

教養科目

様々な学問分野の科目から構成される。専門分野以外の幅広い知識を身につけるために講義形式で行われる授業である。中には、少人数クラスでアクティブ・ラーニングを中心とした授業もある。科目は、「多様な社会と人間の尊厳」「自然の摂理の探求」「知性と文化の系譜」の3つのテーマの科目群に分かれ、いずれのテーマの科目も必ず履修する。

上記の基盤の科目群のうち、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）および情報処理に関しては、上級レベルの力や高度な知識・技能を身につけるための関連科目も全学科の希望学生に提供する。この履修によって、ディプロマ・ポリシーで示す学修成果のレベルを超えたより高度な知識・技能を習得することも可能である。

学科ごとの学位プログラムにおいては、学科の学問分野を踏まえた基礎的な科目および専門科目・プログラムが提供される。これらの科目、いわゆる**学科科目**は、4年間かけて学年ごとに体系的に履修を進めていく。講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングを主体とする演習形式や実験科目も数多く提供される。また、体験的なプログラムを提供する学科もある。

本学では全ての学生に対し、**卒業論文・卒業研究・卒業制作**（学科によっていずれかを指定あるいは選択）を必修としている。卒業論文・卒業研究・卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に、大学ディプロマ・ポリシーで定める様々な力を有機的に身につける機会である。

また、入学後すぐに、大学での学びに関する理解と生涯にわたる学びの導入を目的とした全学的な**初年次教育**を行う。そこでは、入学までに培った知識・技能・態度などを振り返りつつ将来の目標を設定し、自己を成長させる意識を持たせる取り組みを、学修ポートフォリオ（マイステップ@JWU）を使って実践する。このポートフォリオを使った目標の設定・振り返りを4年間継続して行い、「生涯を通じて学ぶ態度」につなげていく。

（国際文化学科）

- ・多様な地域・領域の文化を専門的に学ぶために、国際文化学科の専門科目を置く。
- ・複合領域としての国際文化の学びにアプローチするために、理論的かつ実践的な導入科目を置き、「越境体験」としての海外短期研修を必修とする。
- ・大学での学びに必要な論理的思考・スキル・ICT・コミュニケーション力や、国際文化研

<p>究の基本的な方法を身に付けるために、アカデミック・トレーニング科目を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外・国内を問わず、教室の外に文化に関連する課題を見出し、他者と協力しながら解決する力を身に付けることを目的とする実習科目として「実践プログラム」を置き、その成果を外国語で発信する科目と合わせて、実践トレーニング科目とする。 ・4年間の学修の集大成として、卒業研究を必修とする。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf）</p>
<p>（概要） （大学全体）</p> <p>日本女子大学は、多様で大きく変化し続ける社会の中で、様々な立場の人の幸福と平和を実現する明日を共創するために、一人ひとりが自らの役割を見出し、探究心と信念を持って生涯にわたって学び実践し続けることが大切であると考えている。本学は、そのような人間の成長を本学の教育の理念（三綱領）に基づき支援する教育・研究活動を行う。この教育方針のもと、基礎的な力および幅広い教養を身につける全学共通の基盤的な教育プログラムと各専門分野における学位プログラムを通して、教育目標の達成を目指す。</p> <p>日本女子大学は、各学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎的な知識・表現力・思考力を身につけており、他者を尊重し、互いにコミュニケーションを取りながら主体的にものごとに取り組む意欲のある学生を求める。</p> <p>（国際文化学科）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外に存在し、複雑に絡み合う諸文化を、多様な言語を修得したうえで、複眼的・論理的・国際的な観点から理解することによって、既成の単一的な文化領域を超え「越境」する視座を身に付けたい人。 ・実践的な取り組みの成果を言語化し、ICT も用いて発信するために必要な論理的思考力やスキル、コミュニケーション能力を身に付けたい人。 ・教室外での実践・体験プログラムを通して得た実践的な知と専門的な知識とを結びつけ、社会のフィールドにおける文化的課題に、他者と協力しながら取り組みたい人。

<p>学部等名 建築デザイン学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法： https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/1/mokuteki_unv.pdf?_gl=1*t4di71*_ga*NzY2MzUxODMOLjE2MzU5ODU1ODAx*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNTMxOTM3Mi4zMTkuMS4xNzE1MzE5NDU2LjAuMC4w）</p>
<p>（概要）</p> <p>建築デザイン学部は、住居学及び建築学の視点から住居から都市までの生活環境を総合的に理解し、住生活を包含する豊かな環境をデザインできる専門性の高い人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024diploma_policy_unv.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>本学において学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び、卒業するために必要な単位数（卒業要件）の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第 23 条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。</p> <p>学位授与を適切に行うための措置として、卒業研究を全学科必修とし、毎年 2 月に卒業論文発表会を実施して、評価を行う。本学に 4 年以上在学し、学則第 23 条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：</p>

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000agch-att/2024curriculum_policy_unv.pdf)

(概要)

(大学全体)

日本女子大学のカリキュラムは、全学共通の基盤的科目群と学科で提供する専門科目群の2つから構成される。その科目は1年次から4年次まで年次を追って段階的に履修できるように配置されている。

本学の学生は、1年次を中心に全学共通の基盤的科目群を履修して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーで示す学修成果に関連する基礎的な力を身につける。さらに1年次から4年次にかけての学科の専門科目の履修を通して、大学ディプロマ・ポリシーおよび学科ディプロマ・ポリシーの学修成果を身につけ、さらにその達成度レベルを上げていく。全学共通の基盤的科目群の中には、4年間を通じて履修するものもある。

本学で提供する全学共通基盤的科目は以下のとおり。

教養特別講義

本学の建学の精神と教育理念（三綱領）を学ぶ。自らの生き方や将来について主体的に考察を深め、三綱領の内容を実践していこうとする態度を身につけて、生涯を通して学ぶ意識を高める。本講義は1年次に少人数クラスを編成して、アクティブ・ラーニング形式で行われる。

JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目

JWU キャリア科目は、社会的・職業的自立に向けて必要な知識、技能、態度を身につける科目である。JWU 社会連携科目は、地域や社会が抱える多様な課題について実践的に取り組み、社会で力を発揮するための豊かな行動力を身につける科目である。講義科目だけでなく、職業人との対話や自治体や企業と協働して進める実践的な取り組みを含む演習科目もある。

基礎科目

心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語、情報処理、身体運動から構成されている。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につける。

・外国語（必修英語）

英語によるコミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を習得するため、1年次に1年間履修する。

・外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）

ドイツ語、フランス語、中国語、または韓国語を学ぶための科目。1年次に1年間を通して、少人数クラスで行われる。学生は、原則、学生の履修希望にそってクラス配属される。

・情報処理

現代社会に必須な情報科学・情報処理の基礎、および情報倫理を実践的に学ぶための科目。1年次に半年間履修する。

・身体運動

生涯の健康維持・増進のためには適切な運動が必要である。その理解を深め、スポーツ・身体運動を実践する能力を育成するため、1年次に1年間通して履修する。

教養科目

様々な学問分野の科目から構成される。専門分野以外の幅広い知識を身につけるために講義形式で行われる授業である。中には、少人数クラスでアクティブ・ラーニングを中心とした授業もある。科目は、「多様な社会と人間の尊厳」「自然の摂理の探求」「知性と文化の系譜」の3つのテーマの科目群に分かれ、いずれのテーマの科目も必ず履修する。

上記の基盤的科目群のうち、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）および情報処理に関しては、上級レベルの力や高度な知識・技能を身につけるための関連

科目も全学科の希望学生に提供する。この履修によって、ディプロマ・ポリシーで示す学修成果のレベルを超えたより高度な知識・技能を習得することも可能である。

学科ごとの学位プログラムにおいては、学科の学問分野を踏まえた基礎的な科目および専門科目・プログラムが提供される。これらの科目、いわゆる**学科科目**は、4年間かけて学年ごとに体系的に履修を進めていく。講義形式だけでなく、アクティブ・ラーニングを主体とする演習形式や実験科目も数多く提供される。また、体験的なプログラムを提供する学科もある。

本学では全ての学生に対し、**卒業論文・卒業研究・卒業制作**（学科によっていずれかを指定あるいは選択）を必修としている。卒業論文・卒業研究・卒業制作は4年間の学びの集大成であると同時に、大学ディプロマ・ポリシーで定める様々な力を有機的に身につける機会である。

また、入学後すぐに、大学での学びに関する理解と生涯にわたる学びの導入を目的とした全学的な**初年次教育**を行う。そこでは、入学までに培った知識・技能・態度などを振り返りつつ将来の目標を設定し、自己を成長させる意識を持たせる取り組みを、学修ポートフォリオ（マイステップ@JWU）を使って実践する。このポートフォリオを使った目標の設定・振り返りを4年間継続して行い、「生涯を通じて学ぶ態度」につなげていく。

（建築デザイン学科）

建築デザイン学科の学生が履修する学科科目群は学科のディプロマ・ポリシーを卒業時に達成できるよう、以下の教育課程編成方針に基づき編成されている。

- 建築デザインに関する専門的な知識・技能を習得するため、建築デザイン、生活、計画、歴史、構造・構法、環境・設備の各分野において講義、演習、実習科目を開講する。
- 建築海外研修や海外の大学等とのワークショップなど、国際性を養う授業科目を開講する。
- 習得した知識を総合し、住居・建築、地域、都市に関わる具体的な課題に対する分析力、課題に対して創造的かつ効果的な解決策を提案（デザイン）し、表現する能力、および論理的に説明・発表し、討論する能力を養成する実践的な演習科目を開講する。
- 情報処理技術等を活用した設計手法、分析・解析手法の習得を目的とした講義、演習科目を開講する。
- 自立的、継続的、計画的に、かつ協調性を持って作業を遂行する能力を養うため実験、演習、設計実習科目を開講する。

なお、学科科目は建築デザイン系、生活系、計画系、歴史系、構造・構法系、環境・設備系それぞれの科目群で構成し、共通必修の基礎科目から応用科目（選択必修）、発展科目（選択）へと学生の適正に応じて段階的に専門性を確立できるカリキュラム設計とする。基礎科目群の中にある専門導入科目では、建築デザイン学部の中核をなす6分野の基礎的知識を初年次から網羅的に学び、建築デザイン学の全体像を把握するとともに、共通言語を身につける。3年次にはまちづくりや建物の保存再生、構造デザインなどに関する専門性の高い実践的な演習科目を、将来を見据えて自由に選択できる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/pg9d8r0000002t2j-att/admission_policy_unv.pdf)

（概要）

（大学全体）

日本女子大学は、多様で大きく変化し続ける社会の中で、様々な立場の人の幸福と平和を実現する明日を共創するために、一人ひとりが自らの役割を見出し、探究心と信念を持って生涯にわたって学び実践し続けることが大切であると考えている。本学は、そのような人間の成長を本学の教育の理念（三綱領）に基づき支援する教育・研究活動を行う。この教育方針のもと、基礎的な力および幅広い教養を身につける全学共通の基盤的な教育プ

プログラムと各専門分野における学位プログラムを通して、教育目標の達成を目指す。

日本女子大学は、各学科のアドミッション・ポリシーに示す基礎的な知識・表現力・思考力を身につけており、他者を尊重し、互いにコミュニケーションを取りながら主体的なものごとに取り組む意欲のある学生を求める。

(建築デザイン学科)

国内外の生活環境を、歴史、地域、芸術、技術、持続可能性、その他社会的課題などの側面から理解すること、またその知見に基づいて豊かな住居・建築・都市環境をデザインすることに興味、意欲がある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
家政学部	—	27人	14人	5人	8人	10人	64人
文学部	—	30人	11人	2人	6人	2人	51人
人間社会学部	—	32人	14人	2人	9人	0人	57人
理学部	—	23人	6人	3人	5人	7人	44人
国際文化学部	—	10人	3人	1人	2人	0人	16人
建築デザイン学部	—	9人	2人	0人	2人	3人	16人
その他	—	2人	1人	1人	0人	0人	4人
通信教育課程	—	3人	1人	0人	0人	0人	4人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計	
0人			758人			758人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://researchmap.jp/researchers?q=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%A5%B3%E5%AD%90%E5%A4%A7%E5%AD%A6					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
従前は学部、大学院とそれぞれで行われていたFD活動をより全学的な視点で推進するために、2021年度よりJWU女子高等教育センターにおいてFD活動を一括して行っている。授業内容・方法の改善に向け、授業アンケートの実施や教職員の意識改革に寄与するようなセミナーを開催することで、組織的なFDの取り組みを推進している。主な取り組みは以下のとおり。							
<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業アンケートの実実施計画・結果分析ならびに組織的な授業改善を進める仕組みの構築 ・FDに関する情報収集 ・学内FD研修、セミナーの企画・実施、FDの意義の周知 ・学修成果の測定並びに評価方法の検討 ・外部からの視点によるカリキュラムの継続的点検 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
家政学部	355人	357人	100.6%	1,696人	1,752人	103.3%	—人	0人
文学部	369人	421人	114.1%	1,500人	1,580人	105.3%	—人	1人
人間社会学部	364人	381人	104.7%	1,698人	1,773人	104.4%	—人	0人
理学部	189人	179人	94.7%	756人	769人	101.7%	—人	0人
国際文化学部	121人	120人	99.2%	242人	243人	100.4%	—人	0人
建築デザイン学部	100人	97人	97.0%	100人	97人	97.0%	—人	0人
合計	1,498人	1,555人	103.8%	5,992人	6,214人	103.7%	—人	1人
通信教育課程								
家政学部	2,000人	103人	5.2%	11,000人	1,540人	14.0%	—人	74人
(備考)								
編入学は若干名募集								

b. 卒業生数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
家政学部	452人 (100%)	40人 (8.8%)	390人 (86.3%)	22人 (4.9%)
文学部	369人 (100%)	11人 (3.0%)	322人 (87.3%)	36人 (9.8%)
人間社会学部	491人 (100%)	12人 (2.4%)	445人 (90.6%)	34人 (6.9%)
理学部	174人 (100%)	41人 (23.6%)	121人 (69.5%)	12人 (6.9%)
合計	1,486人 (100%)	104人 (7.0%)	1,278人 (86.0%)	104人 (7.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【進学先】 日本女子大学大学院、東京医科歯科大学大学院、東京工業大学大学院、横浜国立大学大学院、筑波大学大学院、東京農工大学大学院、北海道大学大学院				
【就職先】 あいおいニッセイ同和損害保険、アクセンチュア、旭化成ホームズ、ANAエアポートサービス、伊藤忠テクノソリューションズ、NECソリューションイノベータ、NTTコムウェア、SMBC日興証券、きらぼし銀行、KDDI、国際協力銀行、清水建設、JALスカイ、ジェーシービー、千葉銀行、東京海上日動火災保険、TOPPAN、トランスコスモス、ニトリ、日本カストディ銀行、日本銀行、日本航空、日本生命保険、日本電気、日本年金機構、日立ソリューションズ、星野リゾート、三井住友信託銀行、三井不動産リアルティ、三菱地所プロパティマネジメント、りそな銀行、国家一般職、東京・特別区、東京都庁、さいたま市、東京都公立小学校、東京都公立中学校、神奈川県公立小学校、埼玉県公立小学校、川崎市公立小学校、横浜市公立小学校 他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
家政学部	473人 (100%)	440人 (93.0%)	23人 (4.9%)	10人 (2.1%)	0人 (0%)
文学部	382人 (100%)	346人 (90.6%)	17人 (4.5%)	19人 (5.0%)	0人 (0%)
人間社会学部	502人 (100%)	465人 (92.6%)	32人 (6.4%)	5人 (1.0%)	0人 (0%)
理学部	185人 (100%)	172人 (93.0%)	10人 (5.4%)	3人 (1.6%)	0人 (0%)
合計	1,542人 (100%)	1,423人 (92.3%)	82人 (5.3%)	37人 (2.4%)	0人 (0%)
通信教育課程	53人 (100%)	1人 (1.9%)	33人 (62.3%)	13人 (24.5%)	6人 (11.3%)
(備考) 転学部 家政学部→人間社会学部 1名					
(通信教育課程) 10月入学者は含めず算出。家政学部通信教育課程では仕事・家事・育児等と両立させて学ぶことから、テキスト科目の修得に複数年かかることが多く、留年となる学生が多い。その他は主として授業料未納による除籍者である。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

- ・例年前年度6月に、「カリキュラム編成等の基本方針に関する申し合わせの会」において、次年度のカリキュラム編成が検討される。この基本方針においてシラバス作成指針も示され、各担当者により、授業の方法、内容、計画がなされ、シラバスが作成される。シラバスの記載内容がカリキュラムの方針(学位授与方針・教育課程編成方針)と整合して適正であるかといった観点から、担当教員以外の第三者によるチェックを行った上で、本学情報システム「JASMINE-Navi」及び本学公式HP上において公表する。
- ・授業計画(シラバス)は、例年前年度12月初旬～2月中旬に各教員により本学情報システム「JASMINE-Navi」を通じて作成され、例年3月下旬に公表される。

(通信教育課程)

次年度の授業科目表のカリキュラム編成に関する基本方針が学務委員会・教授会にて決定された後、各授業科目担当者により、授業の方法、内容、計画がなされ、シラバスが作成される。提出された原稿の記載内容について、通信事務室によりシラバスの記載内容がカリキュラムの方針(学位授与方針・教育課程編成方針)と整合して適正であるかといった観点から確認した後、第三者チェックを経て確定としている(遅くとも2月中旬)。

記載項目については、「概要」「学位授与方針」「到達目標」は全科目に記載、テキスト科目では「学習の進め方」「テキスト・参考書」「成績評価(レポート、科目修了試験)」、スクーリング科目では「授業計画」「受講にあたって①準備学習に必要な学修内容及びそれに必要な時間、事前課題、②使用教科書、③参考書、④持参するもの、⑤成績評価(方法と基準)、⑥学生へのメッセージ」を掲載している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

本学において学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)及び、卒業するために必要な単位数(卒業要件)の策定は各学部、学科毎に実施しており、本学ホームページ上にて公表している。卒業要件については、学則第23条に明記されている。これに基づき卒業認定を行う。学生は「履修の手引き」で確認をする。

学位授与を適切に行うための措置として、卒業論文(学科によっては卒業研究・卒業制作)を全学科必修とし、毎年2月に卒業論文発表会を実施して、評価を行っている。本学に4年以上在学し、学則第23条に従い所定の単位を修得した者には教授会の審議を経て、学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

(通信教育課程)

授業担当者には授業概要作成、レポート課題・科目修了試験出題に当たり、成績評価の基準及び予め示した方法・基準により学修成果の評価を行うことを通知し、さらに、実際の成績評価(レポート添削、科目修了試験採点、スクーリング成績評価)にあたってその基準を再確認した上で、学生の学修評価を公正かつ厳格に行うことを徹底している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
家政学部	児童学科	125 単位	○・無	44 単位
	食物学科 (食物学専攻)	127 単位	○・無	46 単位
	食物学科 (管理栄養士専攻)	127 単位	○・無	46 単位
	住居学科 (居住環境デザイン専攻)	129 単位	○・無	49.5 単位

	住居学科 (建築デザイン専攻)	129 単位	㊟・無	49.5 単位
	被服学科	126.5 単位	㊟・無	44～46 単位
	家政経済学科	127 単位	㊟・無	46 単位
文学部	日本文学科	124 単位	㊟・無	46 単位
	英文学科	129 単位	㊟・無	46 単位
	史学科	125 単位	㊟・無	44～46 単位
人間社会 学部	現代社会学科	125 単位	㊟・無	46 単位
	社会福祉学科	127 単位	㊟・無	46 単位
	教育学科	128 単位	㊟・無	46 単位
	心理学科	125 単位	㊟・無	46 単位
	文化学科	125 単位	㊟・無	48 単位
理学部	数物情報科学科	127 単位	㊟・無	46 単位
	化学生命科学科	127 単位	㊟・無	46 単位
国際文化 学部	国際文化学科	125 単位	㊟・無	48 単位
建築デザ イン学部	建築デザイン学科	125 単位	㊟・無	49 単位
通信教育 課程	児童学科	124 単位	㊟・無	50 単位
	食物学科	124 単位	㊟・無	50 単位
	生活芸術学科	124 単位	㊟・無	50 単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)	<p>公表方法： 大学ポータルサイト及び本学 HP 上にて、活用状況を以下のとおり記載している。 学期毎の学習成果と推移を明確化して、より細やかな学修指導に活用すること、また、学生の学修意欲を高めるとともに、学生自らが適切な履修計画を立てて勉学に取り組むことを支援するために、本学においては、成績不振学生に対する対応、学生に対する履修支援の強化、学生の学修意欲を高めることに GPA を活用している。 (通信教育課程) 学生が自分の学修の履歴や到達度を把握できることより学習意欲の向上と自主的な履修計画の支援を目的として GPA を活用している。</p>			
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	<p>公表方法： 【学生の在学中の学修時間の傾向・満足度等】 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/infomation/6/alcs_2023.pdf?_gl=1*15i0590*_ga*MTMONzYzNzg0My4xNzEwOTE2MzI0*_ga_TG7W8XJWDQ*MTcxNDQ1OTIwMC4xNDYuMS4xNzE0NDYxNzU1LjAuMC4w</p> <p>【学生の学外試験や資格取得の状況】 資格取得実績 (管理栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士) https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html#section5</p> <p>【受賞・活躍紹介】 http://blog.jwu.ac.jp/prize/ その他、保護者向け冊子「学園ニュース」にて公表</p>			

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
家政学部	児童学科	820,000円	200,000円	321,800円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収・年間)
	食物学科 食物学専攻	950,000円	200,000円	343,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収・年間)
	食物学科 管理栄養士 専攻	950,000円	200,000円	343,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	住居学科 居住環境デ ザイン専攻	900,000円	—円	326,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収) 2024年度募集停止
	住居学科 建築デザ イン専攻	900,000円	—円	326,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収) 2024年度募集停止
	被服学科	820,000円	200,000円	331,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	家政経済 学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
文学部	日本文 学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	英文学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	史学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
人間社会 学部	現代社会 学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	社会福祉 学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	教育学科	720,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
	心理学科	720,000円	200,000円	322,600円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	文化学科	720,000円	—円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間) 2023年度募集停止
理学部	数物情報 科 学科	1,020,000円	200,000円	323,000円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
	化学生命 科学科	1,020,000円	200,000円	337,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
国際文化 学部	国際文化 学科	770,000円	200,000円	321,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)
建築デザ イン学部	建築デザ イン学科	980,000円	200,000円	326,200円	施設設備費(年間)、学生図書費(年間)、実験実習料(定額徴収)
通信教育 課程	児童学科	150,000円	30,000円	50,000円	実験実習料(2023年度1-4年次平均額)
	食物学科	150,000円	30,000円	45,000円	実験実習料(2023年度1-4年次平均額)
	生活芸術 学科	150,000円	30,000円	45,000円	実験実習料(2023年度1-4年次平均額) 2024年度募集停止

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【アドバイザー制度】 各学科の学年ごとに2名以上の専任教員によるアドバイザーを配置し、学生の履修に関する相談などを受けている。授業を休みがちな学生や成績不振の学生についても、アドバイザーが個別面談を行っている。留年者、休・退学者については、学科長とアドバイザーを中心に対応し、学部ごとに全教員で情報を共有している。</p> <p>【新入生オリエンテーション】 新入生に対しては、各学科のアドバイザーと学生のオリエンテーション委員によって新入生オリエンテーションを行っている。オリエンテーション委員は各学科3年次学生を中心に4～5名程度で構成されているため、新入生は大学におけるロールモデルを身近に感じながら大学での勉学の仕組みを理解することができる。</p> <p>【GPA 制度を活用した指導】 GPA 制度を活用し、成績不振の学生への個別指導に関する申し合わせを作成し、個別指導記録を基に各学科が成績不振の学生の状況を把握して個別指導を徹底している。</p> <p>【経済的支援】 経済事情で学業継続が困難な学生への経済支援の給付型奨学金として日本女子大学桜楓奨学金、日本女子大学泉会学業支援給付奨学金がある。 家計急変時には、給付型の日本女子大学泉会緊急支援金や貸与型の日本女子大学育英奨学金、日本女子大学大学院奨学金がある。 表彰制度の奨学金としては、学業成績優秀者に対し後期授業料が減免される日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞や各学科・専攻独自の奨学金が設けられている。 その他、あらゆる分野で優れた業績をあげた学生に給付される日本女子大学特別活動給付奨学金等、各種奨学金がある。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【インターンシップ参加支援】 インターンシップガイダンス／ビジネスマナー研修／事前オリエンテーション 在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した職業体験を行なうことができるように、多様で充実したインターンシップへの参加を支援している。</p> <p>【低学年向けガイダンス実施】 1・2年次を対象とした「低学年キャリアガイダンス」や「低学年向けキャリアデザインセミナー」を実施し、自らのキャリアについて考え、充実した学生生活を送るよう促している。また、マスコミ、教員、公務員ガイダンスなども、低学年から参加可としている。</p> <p>【就職ガイダンス実施】 各種ガイダンスは、学生が女性の働き方やキャリアデザインを見据えた上で活動を進められるように配慮して実施している。3年次対象の就職ガイダンスでは、「業界研究」「企業研究」「面接・ES対策」など、就職活動をする上で必要な基礎的な内容をおさえている。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生の学習・生活の支援、特に問題を抱えた学生への適切な対応を全学的に行うために、学生生活部、学務部、カウンセリングセンター、保健管理センターが連携し、学生支援ネットワークを立ち上げ、「四つ葉のクローバー」のマークのある学生相談窓口へ気軽に訪れることが出来るよう体制を整えている。</p>

学生支援ネットワークでは、学生窓口となる上記部門と学科・専攻が協力・連携し、情報共有や学生対応に関する研修会を毎年開催している。また、入学式では「有意義な学生生活を送るために」と題して、学生支援ネットワークによる説明を行い、保護者へも方針や注意点を伝えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

<https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/info.html>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

文理横断教育により、グローバル化や科学技術の進歩に伴う価値観の多様化、複雑化が急速に進行する時代に、自立した個人として生きるために幅広い知識と柔軟な思考に基づいて物事を適切に判断し行動できる力を身につけた人材を育成することができる。学科の枠にとらわれた専門にだけ閉じこもるのではなく、学科の枠を超えて幅広い知識・志向・技能などを身につけることができ、関心と意欲の幅を広げられるような授業科目を提供している。

■教養科目

以下の3つの力を修得することを目的とし、必修科目として全学部全学科の学生に3系列から偏りなく履修して単位を修得することを求めている。

- (1) 人類の知的財産を継承しつつ、歴史的存在としての現在について理解する。
- (2) さまざまな学問分野の成果を自身の知識の中に組み入れる。
- (3) 批判的意識をもって自立した市民として生きる価値観を確立できるよう意識づける。

A系列：多様な社会と人間の尊厳

A系列キーワード … 政治、経済、社会学、経営学、教育学、法律、福祉、人権、ジェンダー、メディア、地域研究、国際関係、メンタルヘルス

B系列：自然の摂理の探求

B系列キーワード … 地球・宇宙、科学・技術、化学、物理学、情報、人間の身体の構造・機能、心理学、数学、生命科学、生活、環境

C系列：知性と文化の系譜

C系列キーワード … 哲学、歴史、地理学、美術、音楽、演劇、文学、宗教、言語、異文化理解、文化人類学

■情報処理科目

情報科学及び情報処理に関する基礎的な知識を修得するために、情報処理科目を全学部全学科の学生の必修科目としている。Windowsの環境でデータ処理、簡単なプログラミングを行える能力を養うとともに、コンピュータのハード・ソフト、ネットワーク、情報セキュリティ等の基礎的な概念と情報倫理も併せて学修し、情報化時代に必要なAI、IoTなどの知識を身につける。

■教育認定プログラム

多彩な授業を履修することにより、Society5.0の未来社会において新たな価値を見出す力、社会に出るための基盤となる知識や柔軟な思考力、社会へ発信する表現力、問題解決に向けた実践力を身につけて、将来様々な分野でそれを発揮できる人材の育成を目指している。全学部全学科の学生を対象に、総合大学の強みを活かした3つの基盤的科目群の教育認定プログラムを設置し、各プログラムの履修要件を満たし、必要とする単位を修得した学生に修了証を発行している。

①キャリア教育認定プログラム

本学の教育の柱「生涯教育」を念頭におき、自分の特性を活かして、実りある道を選択するために、現代社会に生きる女性の生き方、働き方について考え、先人に学び、幅広い知識や思考力、実践する力を身につける。

②社会連携教育認定プログラム

多様な情報、人、機会にアクセスしつつ、社会・地域に存在する課題の発見、問題解決の手法について理解して、豊かな発想をもって行動・活動につなげる力を身につける。

③AI・DS・ICT教育認定プログラム

AI（人工知能）、DS（データサイエンス）、ICT（情報通信技術）の発展が進む社会にあって、それらを活用して諸問題を解決する力を実践的に学修する。

■入試制度

入学者選抜における文理横断の観点からの出題科目の見直しを行い、2025年度入試より、一般選抜において大学入学共通テスト利用型（前期5科目型）入試を全学部全学科において導入する。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103439
学校名 (〇〇大学 等)	日本女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人日本女子大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		253人	253人	—
内訳	第Ⅰ区分	152人	148人	
	第Ⅱ区分	64人	62人	
	第Ⅲ区分	37人	43人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				—
合計（年間）				279人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	17人
(備考) 年間計には、適格認定における学業成績の判定の結果、2回連続で「警告」となった場合のうち、2回目の「警告」がGPA等が学部等における下位4分の1の範囲に属したことにより「停止」となった者を含む。	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	—	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	36人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。